

蓬州舊勝錄十八

慶和縣  
史編纂  
係之印

共拾九冊

第 第  
品目  
年月日  
製  
昭和  
年  
月  
日  
興費  
第  
三  
号

294  
ス  
1-18



蒼州舊編

卷十六

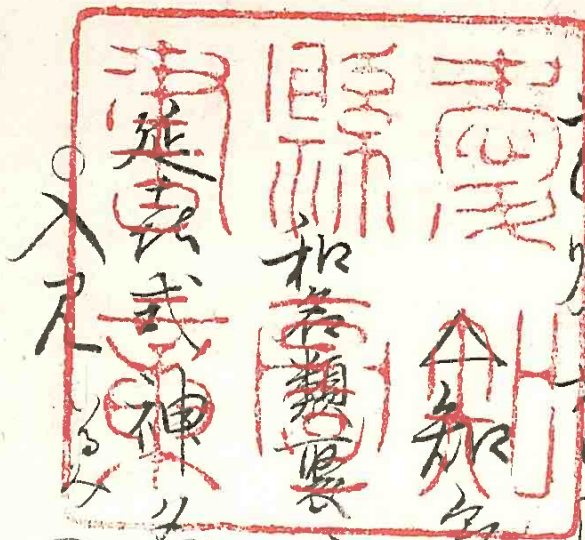
知多郡

共十九冊

第一千九百七拾四號

彦州舊勝祿卷之十七

鈴奈町通集



入久

神

若帳云云

阿久比

備具

備馬

英比

○當那村号凡百四十五色如丸

入海神住石洞  
経川中にお村あり

○好足をば

備馬 備具 備馬 英比  
備具 備馬 英比  
備具 備馬 英比

清水	本山	吉川	富田	後内	平治	寺中
本庭	娘治	本田	加布屋	茶本		



A294  
ス  
1-18

大真吉 矢田 久米 首山 石瀬 宮山

小倉 南粕屋 山粕屋 杉根 大高橋

名和 加象 大里 横原 萩 中宿

平井 塚の口 廻間 依布里 胡倉 古足

岡田 森 飛込 妻原 大州 大埴

西口 板戸 鬼ヶ崎 多尾 (右古三村 一福) 平井 西口

退合 日新田 長茶 松伏 半月 白沢

坂部 弁心 稗文 榎原 矢口 高岡

角島 大古根 柱 岩滝 横巻 萩

宮津 板山 福後 右古三村一福 (右古三村一福) 英比羅中ト云

北條 真桑 瀬木 常滑 樽水 河野

徳也 古崎 檜原 川屋 大谷 小鈴谷

廣目 坂井 上中 小真田 南真田 杉並

細目 一久 小井浦 小沢 馬場 畠部

吹越 <sup>△</sup> 西端 <sup>△</sup> 東端 <sup>△</sup> 中々 <sup>△</sup> 内福寺 <sup>△</sup> 楠  
 名切 <sup>△</sup> 利屋 <sup>△</sup> 岩倉 <sup>△</sup> 久 <sup>△</sup> 大泊 <sup>△</sup> 須佐 <sup>△</sup>

(右幸壽一福下次 △ 下土ヶ村 △ 内福寺  
 卜福次 北東 桑原 瀬村 幸徳村)

是近福浦有也

有虫 <sup>△</sup> 蔭合 <sup>△</sup> 河野 <sup>△</sup> 大塚 <sup>△</sup> 楠道 <sup>△</sup> 通所 <sup>△</sup>

北尾 <sup>△</sup> 横根 <sup>△</sup> 大舟 <sup>△</sup> 村本 <sup>△</sup> 緒川 <sup>△</sup> 石原 <sup>△</sup>

生路 <sup>△</sup> 友江 <sup>△</sup> 有根 <sup>△</sup> 亀河 <sup>△</sup> 乙川 <sup>△</sup> 市原 <sup>△</sup>

成和 <sup>△</sup> 長尾 <sup>△</sup> 大足 <sup>△</sup> 大高 <sup>△</sup> 富貴 <sup>△</sup> 市原 <sup>△</sup>

布衣 <sup>△</sup> 時志 <sup>△</sup> 小方 <sup>△</sup> 河和 <sup>△</sup> 古布 <sup>△</sup> 矢梨 <sup>△</sup>

切山 <sup>△</sup> 乙方 <sup>△</sup> 山田 <sup>△</sup> 大井 <sup>△</sup> 行名 <sup>△</sup> 作伊 <sup>△</sup>  
 日間 <sup>△</sup> 篠波 <sup>△</sup>

○ 尚那 色くお字子角道法家教授

○ 大高村 <sup>村々申し方三町</sup> 中江村 <sup>村々申し方四町中</sup> 横次村 <sup>村々申し方四町中</sup> 上巻村 <sup>村々申し方三町</sup>

同石尾 <sup>村々申し方一町</sup> 田畑 <sup>村々申し方一町</sup> 八ッ倉新田 <sup>村々申し方一町</sup>

○ 若和村 <sup>村々申し方一町</sup> 八ッ倉新田 <sup>村々申し方一町</sup> 知七 <sup>村々申し方一町</sup> 寛文己年

○平井村

村の南の方  
村の北の方

杉山村

○白方村

村の南の方  
村の北の方

小根村

○堀内村

村の南の方  
村の北の方

荒古村

○高田村

村の南の方  
村の北の方

蒲池

○枝並村

村の南の方  
村の北の方

物置下村

○大竹村

村の南の方  
村の北の方

本橋村

○南奥田村

村の南の方  
村の北の方

白部町元福八五年

○常階村

村の南の方  
村の北の方

市場村

○北奥田村

村の南の方  
村の北の方

新田

○一久村

村の南の方  
村の北の方

新居村

○大北村

村の南の方  
村の北の方

新田

日石尾

村の南の方  
村の北の方

大北村

日石新田

村の南の方  
村の北の方

○上野村

村の南の方  
村の北の方

七町

○後之村

村の南の方  
村の北の方

鬼ヶ原新田

○須佐村

村の申す方七丁

中次村

○牛田村

右の申す方

子九十九名

小依下云民也と有

日成方八丁

七百七十九名

七百七十九名

○西端村

尺取

細六反は取女部ト

○福貴村

市場村

○山田村

新田浦

七百七十九名

○古布村

浦戸村

○大脊村

江端村

○乙川村

村の申す方七町六間

飯盛村

○成岩村

七百七十九名

日向村

日向御井村

七百七十九名

四百拾名

平地新田

七百七十九名

日向新田

○東端村

新田

植村新田

小坂山村

日向尺取

市原村

村の長方十三町  
口十町

東河内村

村の長方三町三斗  
口五町 坂部村下云

大根判田

村の長方村長  
口十町

福住村

村の長方一町廿

葛子村

横根村

村の長方三丁  
口十町  
石丸村  
同平方三丁  
口廿一町

半月村

口十八町  
村の長方十一町半

米田村

口十九町  
村の長方八丁半  
村の長方十町半

加木新田

多々村

村の長方三丁  
口九町  
田知十一町七反

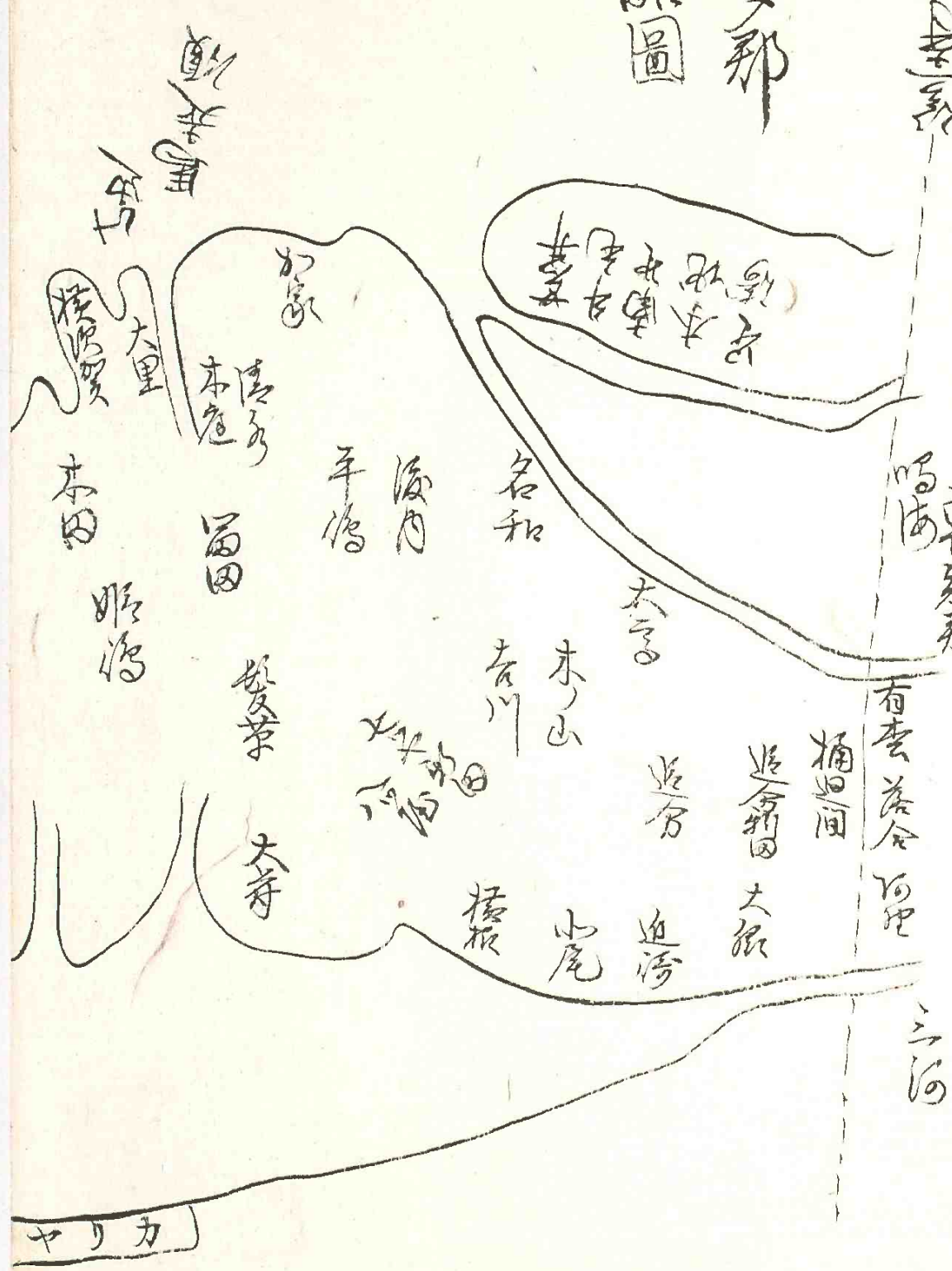
煮高九万石五斗 六斗五合  
寺社領 高七万八千九百五斗五合

内

二百三石五斗八升五合  
二百三石五斗七升五合  
津領高介  
津領高介

知多郡

略圖





當郡、立、川、南、一、而、長、

出、海、中、者、陸、十、六、里、

計、其、間、東、西、或、一、

一、里、餘、或、二、三、里、

有、條、而、北、方、

少、雖、接、地、

也、知、那、實、

似、孤、級、一、邊、

那、中、南、北、山、連、而、

其、間、山、下、或、峽、谷、

者、俗、是、謂、

中、通、一、

其、山、中、下、海、邊、

東、浦、西、浦、

西、浦、隔、海、與、列、

其、海、路、七、八、里、

至、十、余、里、

東、浦、隔、

海、參、列、

其、海、

路、甚、

途、

以、南、雖、

漸、遠、不、過、

三、里、而、已、今、

郡、中、凡、百、四、十、條、

後、海、内、 半月

中、海、 上、

朝、倉、

吉、足、

森、

大、原、

目、永、

大、軒、

小、倉、

西、山、

板、

鬼、

化、

水、

常、

入、見、

九、

十、

福、

板、

有、

宮、

板、

福、

板、

本、

廣、

板、

長、

十、

十、

十、

十、

河、

大、

大、

小、

板、

山、

南、

粉、

一、

曾、

內、

利、

山、

山、

山、

山、

能、

廣、

市、

小、

布、

時、

市、

大、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

古、

信濃 河内

信濃

志の湯

湯如間日

湯久依列三

○当郡人物誌略不謂 或如地取領主武功名人

小川之部重房	緒川村	須細治敏美為基	次依村
新津守堀吉光兼	新津村	長田比部忠致	河内郡
中津九良重助	生路村	細入河内守重盛	細目村

中津九良重助	細目村	郷田源次有樂	大田村
子實新吉房	同	水也志之妻忠政	院門村
水也監物重盛	若澤村	水也孫八郎	河内村
水也下地守信元	院門村	水也大孫	大田村
前関白正三位内大臣豊后之好秀次	院門村	長尾武藏守吉房	大田村
牧池守与吉成守	大田村	依治上地守	大田村
依治備中守	内海	久妻依後守	院門村
後平守与吉	院門村	永井大進左史重房	院門村
		平田孫八郎	河内村

中山寺

信濃村石殿

梳川

大根村

岩田果貞

長尾村日

水地

智村日

竹内

草本村日

橋

川

依原

馬場村日

石井

日村

石井宗

萩村日

石井捕二守  
子甚ハ高八郎云  
海内村東田橋ニ尾崎九郎云下云  
石大根村在屋敷家老柳井中守  
石大根城下川の方ニヤリ  
家老云律傳七郎云云

花井

吉川村日

惠高那内古松屋浦址大九方不補立之ニ條ト云

○常那 除地の日

高多那

唐合村

一 屋浦八反七畝下

望

唐合新田ニ後入持也教ともハ此ノ繁昌後所ノ荒  
行要ニ公法役所然ニ後ニ公合治所ノ屋敷并後ノ  
以来ハ高多那ノ荒止打所大ニ後所ノ山ノ下ニ  
及宗田畑ノ事ハ有松利町ニ並モ之ノ有ニ

己八月

唐合利町

之六ノ下ノ事

長源大判  
有忠日

右ハ高多那ノ事 利町家ニ取テ別ニ有ニ以除地

唐合村新田指屋浦ニ後入中ノ事 所意以高多那ノ  
有別ノ事 根也モ高多那ノ事

五十二ノ下ノ事

唐合

唐合百餘年

唐合  
少田  
有田

一尾谷ハ反走ト

知多郡

有雲村

知多郡内桶上向村新町に後法後寺と云々  
守り古有るに於て後寺の御堂に  
守り古有るに於て後寺の御堂に

寺長拾三申二月十八日

寺長拾三申二月十八日  
寺長拾三申二月十八日

あけなきのり

信守  
信守

有雲邑新町在るに浦に依

於本町の田舎田之判田より大なる落合村下文成寺に記云  
同様の田舎田之判田より大なる落合村下文成寺に記云  
同様の田舎田之判田より大なる落合村下文成寺に記云

○寢山

傳云惣而謂知多一郡一云云

後頼朝

時多れのが寢山の志いばよわくし  
時多れのが寢山の志いばよわくし  
時多れのが寢山の志いばよわくし

教本集に記あり 案に和言良玉集未本集に正  
とるに傳と只尾張國の山乃名とのみ記して何處と云  
たるに傳と只尾張國の山乃名とのみ記して何處と云  
たるに傳と只尾張國の山乃名とのみ記して何處と云

○尚那に由法養と云ふよりて  
尚那に由法養と云ふよりて  
尚那に由法養と云ふよりて



申奥に之等の儀を盗取勢回し持り承り後一更又實  
 至りて後果流るるに在りしと好実返次を画云々  
 諸地破たれぬ泥仏細金の移りして今画に如く  
 の百方遍の諸村を統率して今之門村をとりて返りぬ  
 中伏の儀は古より有りと云大坂藩城に此坊の地を云々  
 画儀の元和子の法を越う物ありしと云々  
 次郎の村は彼年早の目途し清取た来ぬ或法ありと云  
 瑞公元禄年間横濱で御殿まで及び開石御殿村  
 古番好古屋凡双一丈餘の所を在り画御寄附あり  
 上り明の好く化を通り明和三年寺本村之史の如く  
 廻り室暦十巳年秋大なる村を二尺に夥多冠集り

西浦大也道十三村より右の如く信養をとり東浦を  
 英比十吉村同の示院川村本石原生路有旅り  
 日引信養あり大也道は彼年合有る執行  
 英比信養の横書村 萩村 宮津村 福住村

板心村 白沢村 草市村 坂部村 卯山村 程信村  
 梅原村 矢口村 言園村 角島村 杜村 大根村  
 右英比谷十吉村 後之住英比丸殿本儀を奉り八月彼  
 岸の中日に如く是も及場五ヶ処本寺に在り大形西浦  
 の下  
 英比丸の妻の末の所ス

○西浦堤大高邑始り申通り南浦岸鶴見に至り

○大寺村古城址 大寺村辰巳方を立ち東西卒九分南北十八  
 歩四方を二年信光三列の儀あり永禄三年に義元  
 祭に後易界を遠三三列に上所に到る時、中野新  
 庄高城義元相模間を討死因而三列に圍崎に還り  
 后水地大根女在り

○同鶴津古城墟 大高村中宮の方以程八町余東西

十四步南小十五步四方立、接上、没義元到尾而时、尾  
 浪勢、彼尾、追江守、計城、楯籠、後河光登、惣攻、高、  
 时、追江守討死、

○同九根古城址

大子村、小、方、行程、口、町、接、自、东

西、九、分、南、小、十、五、步、四、方、立、接、上、之、の、浪、形、在、義、元、到、尾、而、  
 用、尾、浪、軍、於、依、之、間、大、子、孫、城、  
 高、則、被、討、取、大、子、

自、大、高、城、坏、到、就、津、城、墟、行、程、八、町、自、就、津、  
 城、至、九、根、城、址、行、程、五、町、自、九、根、至、大、高、行、程、  
 四、町、

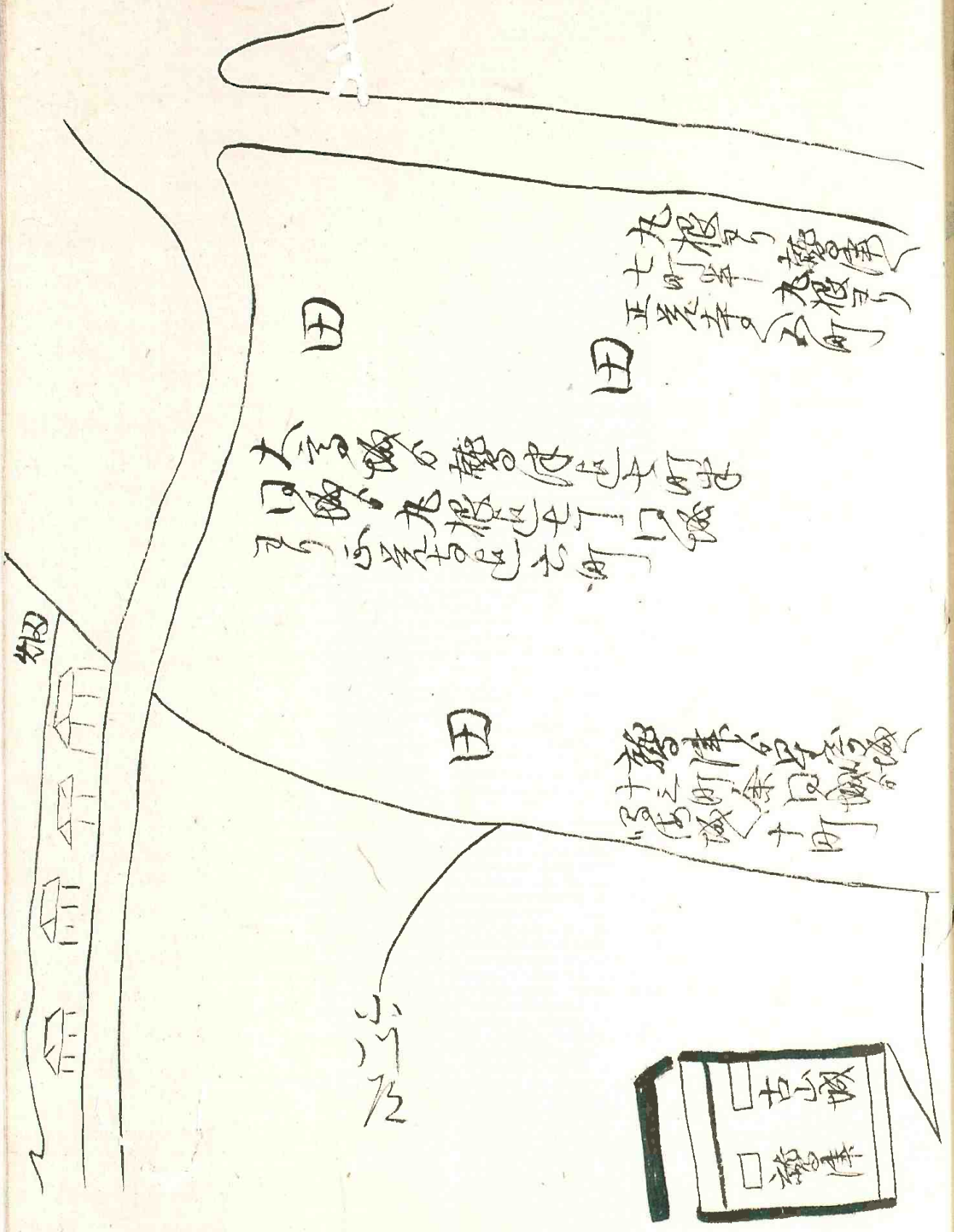
古城址圖

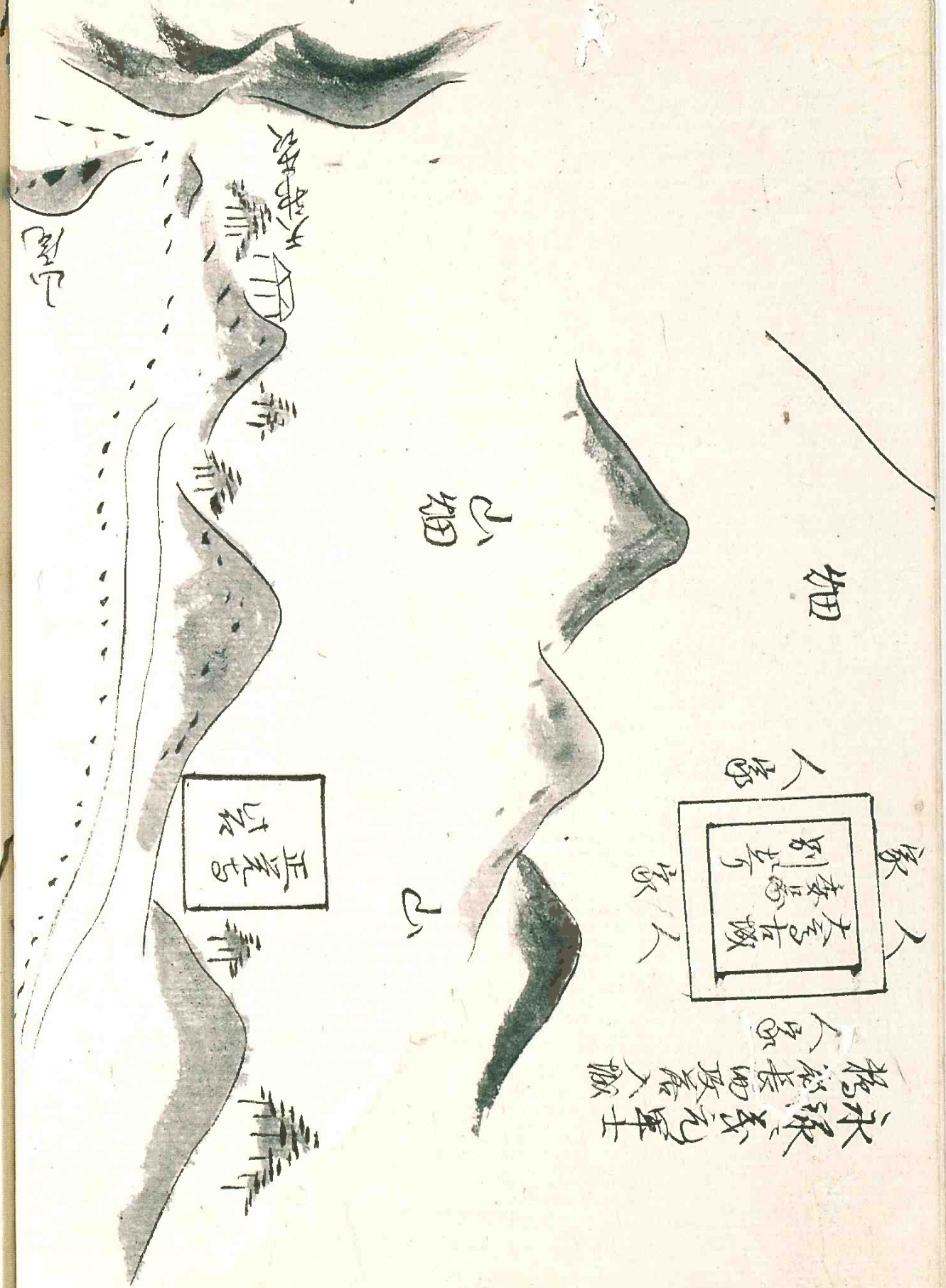
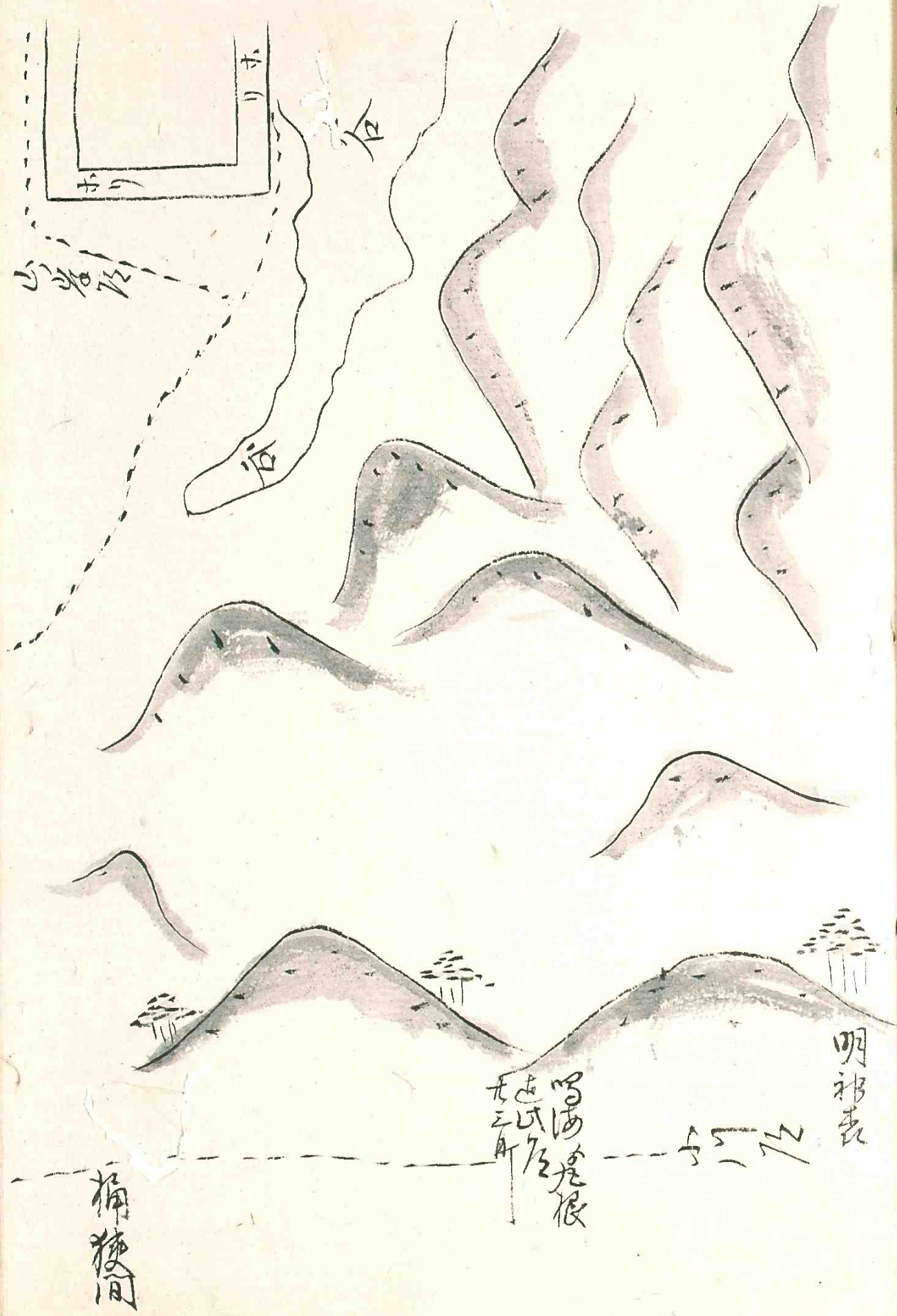
南

北

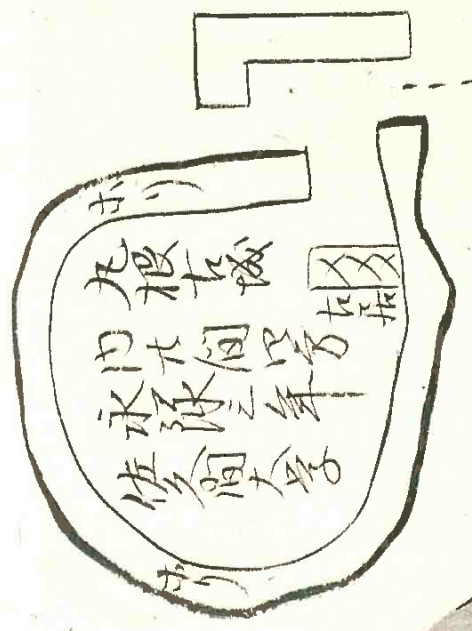
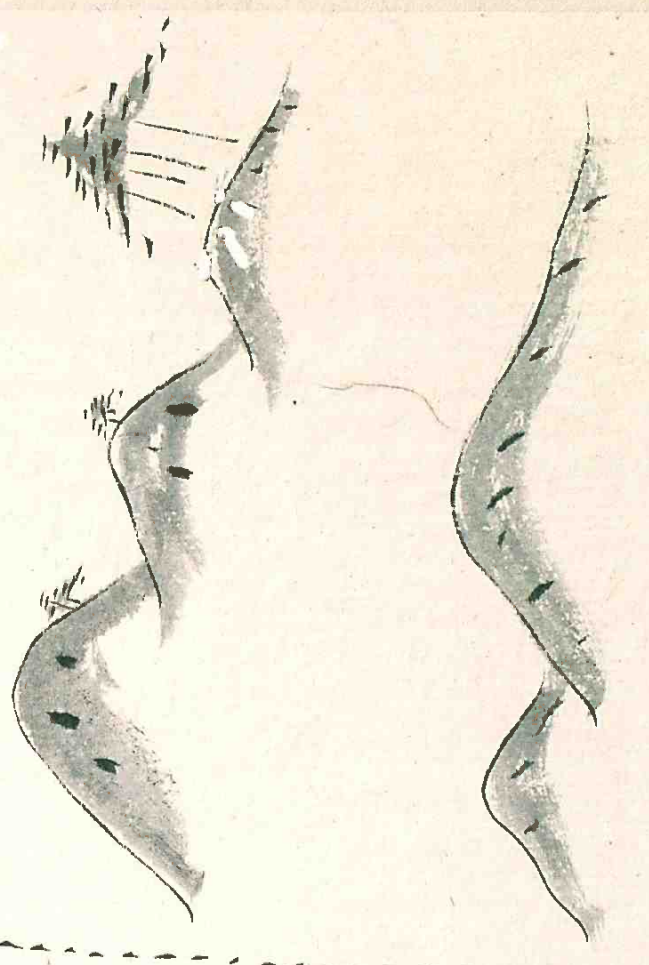
東

西

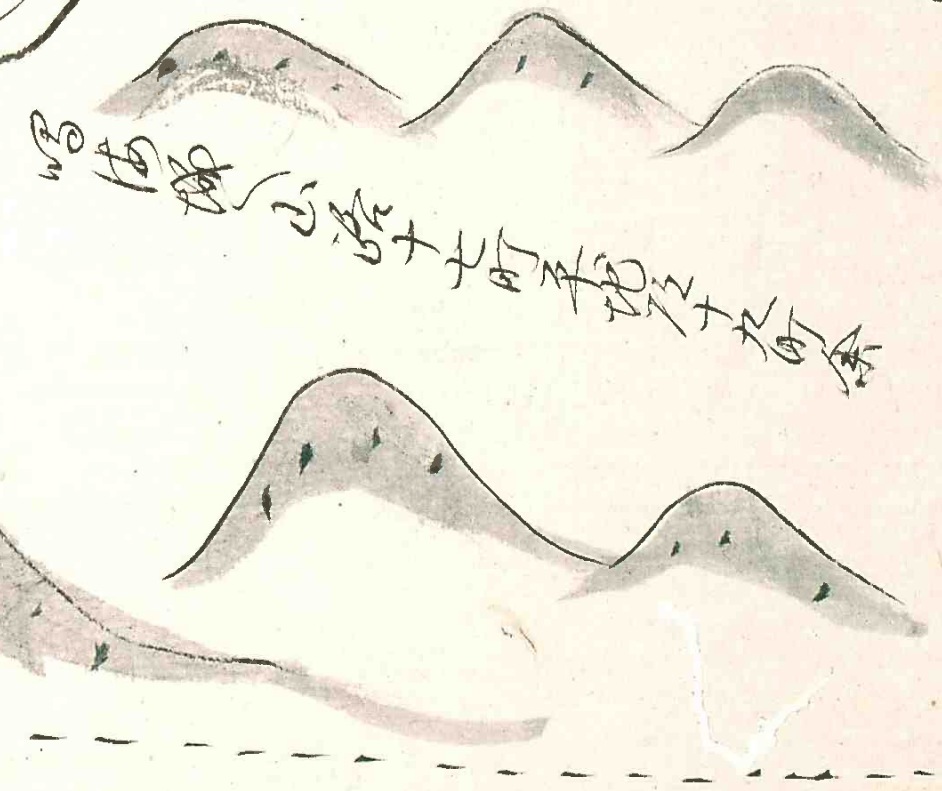








石



氷上神社

大高村鎮座

東西六拾九間南山三百二十間  
鳥井流百七十間余去勢田  
大宮一里半云々

国内神名帳正三位名神

祭神 宮跡媛命 大上婦子  
社社云

本宮

迴廊大斎院殿  
勢田大宮(如)

拜殿

勅使殿

御供所

湯沼

一三ノ鳥井

鳥札

列札(勢田)

社司

久米若狭

正持司

田沼丹波

○持社 山内大社  
通法殿

八劍宮

勢田八段目所

源太夫社

(兼) 禰子命  
尾張師女

廣田社

(天照大神荒魂蛭見)  
勢田皇太弟宮

白鳥神社

勢田大明神

朝宮社

大老婆(大老安)祭九  
大老婆(大老安)祭九  
此地東西寺皆南北向

稻荷社

宇賀魂神

元社

上古德成菩薩

常世社

宮實媛命伊波魂根  
海原云媛曰吾來云云  
移三ノケルを常世社  
常世社元云ハ靈根  
凡云故云云所カ

山王宮

大己貴命

濱社

鹽古老翁

左星社

雄七夕

天五文

素盞盞鳥尊

右星社

雄七夕

古志古史市茶平止與命

大姓社

ホアカリノカゴヤマノ  
大明尊香熟山命  
ヲ、ヤマスミノ  
大山祇命

山神

白山持現

ヤシリヒメ  
菊理媛命

請雨社

雨龍

水口脱瀉 氷上舊跡

櫻掛書日

そら化日

延喜式曰氷上姉子神社日本武尊平東夷歸宮實  
 媛命家趣京師時解劍授宮實媛命曰令室持此  
 劍為我麻守宣因茲草薙劍奉山齋藝田宮宮實  
 媛命奈氷上邑為其持社氷上松雄瀉之旧里之氷上邑後謂  
 火高里神社民屋被度依回祿改火高而謂大高云云

一 仲襲己亥年氷上宮始而漁也

一 持統天皇四庚寅年氷上宮元宮遷今宮地祭祀領  
 免田一百余町所尋附神樂元宮朝世社神幸諸系  
 祀起此時今新絶

一 永曆元庚辰年深義朝本朝ノ後趣類朝ノ後知多浦時氷上宮  
 系系諸諸利利源源家家繁繁昌昌獻獻方方刀刀一一口口云云

一 氷上元宮西南嶺面山三町余白鳥山云亦名名原原山山云云元宮  
 旧跡之山巔勸請白鳥社其外立末社三宇寛永十八年須  
 御代官去原山帝在門被沒收此山白鳥山氷上宮境內之



一 十二日午の御披露あり 一日大晦の御披露あり

當時御事断修りな如し

一 正月の難鬼祭の夜 一口八の魔の宝水用の夜

一 毎月晦日本社元白鳥社大氏社御草社奉修りあり

一 二月末日改修御子持の夕日迄末社不感供所御進事

一 日己日午日自素代参りあり

一 四月朔の本宮元文玉根御社御草社御社祀の事

一 日十の八犬首川玉街御進の事

一 日十の御日お仕傍参り自之の夜

一 日八の白鳥社供所御進あり 大晦日又御清事

（五景の御馬の境七支學家乃山人曰正學家公  
之る御田の御御参り後社日之奉氏市公執りあり  
之る御田の御御参り）

氷上社系系  
来月自之

〇〇天穂津大来月 元祖 天孫降臨  
時先駈云云

久米直七奉脛 大来月 日本武東征時奉  
直七奉脛植為腰丈

以從社奉見古史記 八重八奉脛下字尾尾云  
来月長 氷上宮社務元祖の事  
靈社之奉り長社云

常見 改姓六十五世 平斐與 改姓六十五世

長昌 改姓六十五世 吉長 改姓六十五世 清吉 改姓六十五世

来月直長稻 改姓六十五世

来月直長稻 改姓六十五世

（櫻田肉巻雜祿を撰りての氷上の地大さ村を  
云と厚洗茶子外書に櫻田筑出の屋敷云

八情宮 拜殿 大さ村 氷上社 社人 石田宗文

城の御進高し 参りありの御進高し 御進高し 御進高し

○大子村山子古月  
山林尼庵之所修

源家室流江列水原寺末

就寫頭山長其書

本寺河海院仏 名古所心天立坊  
安養寺古本寺

開山越傳紹付和尚

申興冥山石様道雲和尚

建創 志水甲斐忠政宗開創室  
大檀越 長寺院殿寶雲竺葉珠大姉

寺名 百石 室永七宮年始与御下章下執入

南山古八春日井那之開村に立って榮金山慈服寺進言源流こ  
近室八庚申年當願志志右右忠時候之開村に地より移り  
女取之志願百石を寺附有きけ地は從從長祐寺として  
本寺との親善堂を在り 天治 某師寺十五堂有り立りて此院に

本寺祐寺の地大子村の東部果山の地幅如少律金寺二世の  
大徳和為作藏の後中後次至元禄二己巳年改流江列  
陽る山永源寺寂室流といは流地長祐寺の正親をの  
寺像傳生れけきまての地たり  
按て之開村慈服寺上條村へ易地を限立匠開山越傳紹付  
寺とて慈服寺の地を在りて云くは後名傳

○大子村在り境内  
河海院佛堂

源曹後法賢長海寺末

大高山春江院

本寺新迦如來 原不念

開山 天正十三年  
十月十三日 庵和尚

大石水也の寺傳臨川の和たそ  
巴々知知念江流二寺一寺古も建立  
寺は山の上を移りて寺下は右なり  
四世和尚の代易地を以ては  
永永寺の寺文河りにて云

建創 春江院殿全芳居士 水地大徳寺

引流二寺の宮殿 弘治二年九月

○大寺村 氷上村の支所  
境内の山を浄土

日光春江庵末

日陽山東昌寺 平

本寺 淨觀寺 派名

元基時代浄土浄

用山 春江世雪山願智

○大寺村 志水候にあり 表  
山と大寺大表あり

天宮山内密院末

白旗山海子寺 山内密院

本寺 正觀寺 定朔休

菅原地とハ之に表傳院  
申具に改定あり

用山 改定法下

淨曹日色春江庵末

孝養山明忠院 平

○大寺村 山中にあり  
山と大寺大表あり

○子落地末 (山内密院末)  
○都島觀音 (山内密院末)

用山 膳菴寮 和向院

大寺村の中より山と大寺大表あり  
境内の山を浄土

石地末

菅原地とハ之に表傳院  
申具に改定あり

志水候 屋浦

菅原地とハ之に表傳院  
申具に改定あり

大高菜

菅原地とハ之に表傳院  
申具に改定あり

名和色

菅原地とハ之に表傳院  
申具に改定あり

〇<sup>日本</sup> 〇<sup>足跡石</sup> 金手丸云光家ニテ其の勢ト  
名和村の足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 大ニ神ハ馬を七疋乗殺シテ  
名和村の足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 名和の礼儀ト云々金手丸云光家ニテ其の勢ト  
名和村の足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 名和の人々の不潔衝及り村の入口に魚ノ枝槍  
 〇馬走流。一のくま。二のくま。三のくま。

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

守備に堪ふべきを多しと云々  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石  
 〇<sup>足跡石</sup> 足跡石

○天正山

斗次天皇

中街左條山上陣と云ふに誤り

名和村

祿曹横河原長原の末

平

光周山長光寺

○名和村寺内  
寺名五岐子南条原

本寺十一面観音

行基次三像  
本寺一人寺余

天正三申庚午九月廿二日

用山牧翁拾大和書

文福也云云

二世光室大和書

永祿十三年十月十日

用基明室貞光大禪尼

開創貞光尼ハ藏田信長の子長水也帝力女も水也下也守

信元の室原之次光尼為菩提草創命和為の完基檀越  
の如云約去り吉領三百貫目創十二町の地永代前附の院文を  
所紀早雲禪後り長草の妻に贈倒志了(秀吉殿下  
平)被没倒志了(光)菩提観寺地信田略立足跡尚古  
扱支死別如光

○阿波陀堂一字

阿波陀

右記字也

○庚申堂一字

十五寺一字

後日川移ス

○名和村内古院  
三岐子南条原

言田流唱阿了佛如来

顯知山妙法寺

本寺阿みだ

用山高田寺二世顯知上人

尚古完基顯知上人高那(末條志)の末孫也  
當寺に留る故に山号を獨り顯知山云  
智字尚古御詳





又次大護摩供忠感利禱立為一夜任職後申に事と  
西面に向ひ居しめ無難遂に後メテ平次巡の如く次第而  
村家豊饒田着如信皆乞薩埵悲願の不到之に後是を相  
既久資一愛而為直云教場九十三之に後既朔帝嘉曆二年  
丁卯別尚是直信僧任性等相謀而會與囑誓田宮次郎  
吉吏直所一執事春二月在百幸是彼岸入の時故に用之帳及  
四月初八日至而上按日年十月一日安成供養秋九月九日到而  
宝蔵を納肉殆く後舊觀未幾九十九之光明院建武元堂  
舎樓閣亦も毀壞西之像爛爛物を免も存すと云は自刻任持  
嗣兵荒系下成而檀我の石塔婆山峽坂燈の向の之真和  
休子之に到而臨殿心佛愛念心是圓外外通余日此日  
七區伽藍炎燒を視て樓門一字を告に彼る以平殿の二首を此  
妻に安至志於厨庫等を造告志為中具用山自平冥心爰  
寛正元年宗善院玉作特賜号辨心建之到今況是次自新  
法相真云流之銘之宗の福脈再古鏡之に後到之に後小寺院應永  
八年己年大檀越小笠原房長守道之福門位指以五持晴相

議三用之能供者後春宣字日也の子刻開帳日九月壬午秋八月在  
夜半宝字を納收百之に後之門延住之申檀越後徳徳  
在の二層世為勅寺の外後伽藍焚壞後与者植之と云く遂に  
衰而以知た在を移之建寺管被勅進之と云り又陽本心号之  
名村而本心山云て後弘治年中改山号次至了了山号孫  
之裔水寺の助僧執事是之百之に後相成院天象之要之  
任指被勅泉坊囑道所留安たつて入之に後宣殿一字を造告之  
冬十一月九日入徳供修永正二乙丑之に後泉再命普道徳田後  
刻高の天仏宝殿一字を告造十二月十八日以殿名被告天下安  
寺檀長之を初永正十亥之に年正月八日堂茶被銘之に後  
大永六丙戌年大檀越深沼氏次郎為勅進之に成り任指被勅泉  
お儀之冬十月十七日子刻啓宝帳囑法立降得令唱開戸頌日七丁  
亥年十月十日之に夜の刻冥應信忠之院之百之に後宗長院の  
天文十年丑之に任指再宝殿を被告二月晦日上梁の法を造次日  
十二亥卯年任指昌賢別尚深沼氏と云計而開帳供修八月  
十八日宮別冥殿冬十月十八日年刻因字百七之に正親町院永祿  
根

辛酉年任持目印為三別當藏久之壽、後又開殿祀極院  
方量之を勸誘以八月十日、印の別當元祿四年壬申二月十八  
年別當内教天正丁丑年任持宗園之職、又別當久之壽計  
又同帳元化八月十日、印の別當元祿九月十八日、年別當元正  
元正元祿年任持賢之德、業相之度、邑氏檀家山北氏  
次子なる尉馬八重、相後、而用渡邊信吉、秋八月十日、同帳  
百八主、後陽成院、文祿二癸巳年二月、彼岸の目、至り、因  
帳、云く下略

于時 文祿二癸巳二月八日、陽成山田通寺任持業相、謹誌正史

業相、我給之文祿二癸巳二月七日、病逝、云到、此時陽成の法續  
善而、子孫を継ぐを願く、在任、曹洞の正脈、之、業、号、己秋檀家  
邑氏、お強、曹洞、秀、繁、和、尚、を、招、て、之、新、寺、秀、繁、曰、部、之、寺  
村、春、江、院、後、藏、相、約、而、承、之、高、山、下、に、寺、己、未、判、小、所、秀、繁  
信、考、長、に、之、三、村、家、檀、家、計、而、宗、殿、と、元、曆、次、八、月、十、八、日  
丑、別、當、帳、十、月、十、八、日、守、之、殿、秀、繁、嘉、文、十、八、年、辛、巳、年、庚  
戌、入、宗、封、塔、建、辨、為、中、興、用、山、二、世、云、信、考、信、考、也、云、

十六年、寛永二乙丑年、入宗、三世、乃、宗、信、任、職、十九年、寛永九  
癸未年、退、云、他、移、り、世、年、陽、成、指、持、也、信、考、の、十、五、年、乃、法、元  
信、考、の、同、部、如、法、村、云、藏、相、也、由、後、五、世、陽、成、信、考、事、  
二十一年、信、考、檀、興、の、志、深、く、祝、意、の、樓、殿、を、修、造、之、厨、庫、客  
殿、を、修、辨、一、寛、文、十二、壬、子、年、同、帳、元、祿、元、年、辰、巳、再、宗、殿  
々、宗、陽、朝、心、氏、次、分、乃、信、考、客、殿、の、中、別、に、後、室、殿、官  
廳、の、奉、命、也、由、是、安、平、殿、修、造、縁、と、願、文、の、裏、に、承、為、か、る、下  
元、祿、二、年、未、申、陽、朝、和、舟、子、雲、天、香、に、禱、と、傳、り、て、退、而、元、祿  
十二、己、卯、年、八月、十日、示、寂、厨、辨、と、以、為、中、興、才、三、世、之、此、寺、任、持、者、の  
寺、祀、別、祿、友、正、元、西、原、不、平、の、録、成、令、依、大、業、妙、興、八、軸、を、餘  
數、品、の、付、室、交、割、小、秀、繁、七、仏、雲、此、兩、代、之、失、却、破、教、云、云、  
檀、家、中、信、考、之、記、な、物、云、加、磨、二、丁、卯、己、巳、修、造、堂、冥、帳、上、梁、の、路  
れ、小、寺、に、其、餘、寺、境、の、古、址、を、り、寺、の、南、有、三、の、比、列、流、地、云、蓮、地、  
云、皆、氏、屋、と、あり、こ、を、名、の、中、に、無、也、天、地、と、有、な、り、亦、也、門、  
の、舊、跡、を、り、村、氏、云、今、ま、た、也、也、門、と、云、此、外、神、の、云、山、神、人、明、神、の  
三、社、を、り、變、此、寺、の、屋、地、之、行、基、用、本、殿、武、帝、天、平、元、己、卯、年

今上之皇帝元祿乙卯年迄凡千四百九十七年有一年之業  
表寺祀如件

右縁起元祿十二年己酉為原雲番坊書信之 當年より

寛政四年乙酉年迄九十二年 乙酉

氏系

本山村

拜殿 古井 祭正月十八日

縁曹司海瑞泉吉末

其代

西之院山澤侍吉

○寺中村比叵之文三取  
其前御書陳于介山内余

本寺の地蔵 弘法帝御依

○某所堂 其々俗於依

○寔基 元龜三申極目言  
其辨 無外宗本居士 尚郡小田の地  
荒尾小右衛門善久法号

○岡山瑞泉八世揚澤和尚禪師

尚公性号荒尾中右衛門善久建創而為之其地不其以真云の  
其陽平十二坊より七畫御堂の地後之將倒而改宗禪林と成り  
荒尾中右衛門塚又輪より一族の云偏二可也三基也其子に外女  
十六云字の時室塔五福と云ふ善久をたけなはぬ村を寺中邑と  
と大地の名也何り 其の二之後境失而什物縁起未終其也  
猶其荒尾氏の系由 茲寺ハ傳来也と云

○荒尾庄七ヶ邑 年流如家御抄幸申清水本場富田  
但馬保し云処より岡ヶ原の比九鬼大隅守曾廣く浦に致  
大は御次比田輝政の長男荒尾但馬守比列を守りて不  
統也故に俗氏但馬保しと云也其子と誤也和名抄但馬  
或云府庄に保し有り保しと云家氏又同双を云濃島  
より津保の三ヶ邊上保中保下保と云り古く岡本川境  
より書込を居守りしむ

荒尾がけ荒尾強壯云業平朝臣持の女に下向ひ荒尾  
のうめに休しひつ凡眼及へし女に一人の男ふおそ子孫相  
續而此馬の別るなり平の後孫とありひつけくつまで  
百そのおを讀み終りて世に傳ふ

大平紀に立置軍の時次徳尾流の勢に中子荒尾九郎  
日守を討ちあ人を官軍に討ち死すなり  
或記に小川の氷下地守信元女の本田荒尾が妻トアリ  
荒尾成るひけ末富田の志原塚亦ハ大也光政の腹より成ス

○のあま (かみ村山下に在り混谷を王丸馬を走らむにけぬきて  
捕まりて赤走り二のうけ横次郎の伝はり)

○麻 本浦大 加家村海岸

万葉集 何らう海の前あのみ奈口に鳥居乃許成と受之毛  
送る事 かくとのく栂のよたけたきる志原の孫やぬ麻の浦に  
名寄 君あるぞ能ぬる夜に麻の浦の高なる海に

○楸 築田のあま書外家此荒尾のあま色に在処の古砂なり  
古の村周集こととく宝曆の始年築田源を美那社焼失  
造景の時焼去と取つては中ぼたの仲に控へて海に別の家  
村山上の古を導ひて地形を築きしと云

真云存下た次宮收海軍

○かみ村海岸山上に在り  
古鏡本心町橋名跡

大慈心観音寺

本寺の観音 春の成 富川高那 古は善次礼列

天文十庚申年二月に在り  
中興開山昌法下

高山開基古跡と云はる安ん志中世昌尾流の集徳流の  
くち鏡山内産の鏡名堂のありし八咫宮古地豊良寺名に  
の光祥流の北の政不上様所行持寺永代所御也と云

丁卯年八月廿五日田中兵部少輔の謄文、並  
志水新由、高橋、西士の序状、をり、備前探の時、志の  
由、志を、今、永代、隆に成し、云、新由、志、の、中、と、見、候、云、又、

○かき村海岸山  
志水新由、高橋、西士

備前探の時、志の

志水新由、高橋、西士

本寺 釈迦仏 定朝次

閑基 願山孝子忌

閑山 瑞泉世宣大和尚

二世中興仁甫 義大和尚

漢守

全比親實

漢守 山寺漢守

尚、至、而、舊、の、地、を、見、究、  
時代、新、由、の、年、慶、也、  
二世、仁、甫、所、以、時、也、  
日、の、三、世、宣、大、和、尚、の、  
の、中、興、仁、甫、の、  
運、持、寺、の、移、り、又、昭、安、家、の、  
瑞、泉、の、地、を、三、世、  
宣、大、和、尚、の、造、り、  
六、七、十、年、前、再、興、の、時、

堤古山の神小祠在りて漢守たり、地、大、堂、唐、の、中、以、漢、州、全、比、  
願、山、の、佛、札、あ、上、く、流、來、り、け、地、の、岸、に、其、佛、の、  
山、神、社、に、并、建、又、あ、新、と、り、南、村、の、佛、の、八、社、の、神、を、  
別、に、古、の、志、と、地、を、三、世、の、宣、大、和、尚、の、  
由、也、

八社明神

神殿

石智板

持社神明文

名井

小宮江社

桑九ノ十七

かき村

与志史

南色神宮

平瀨村寺院

平瀨村寺院

本寺 河津院 志水新由、高橋、西士の謄文

閑山 龍峯寺 志水新由、高橋、西士の謄文

閑山 龍峯寺 志水新由、高橋、西士の謄文

知慈山西方寺

澤、大、漢、の、寺、下、の、志、水、新、由、上、人

寛元の御方古津歴廣代久一尚世十三代ノ成丸弟  
より八右衛門村迄由り末山たり信濃の村に寄門と云々  
末判迄しがやけ区指ちなら八御下御村あり尾ノ徳ノ  
巻原ノ云々

浄法回色 西宮寺集

聖照山宗園古

表門の承久年抄末

本宮河内院

八事山眞正寺  
天瑞山正依

閑山塔蓮社大具云々又母親也

天正年中平

(書書  
三世)

光蓮社性善長益和尙靈像

本宮河内  
西宮寺集

尚山修職白柳和尙代長益和尙二夜に正教を説し  
及白柳感得の真像としり思案の奇蹟夜々云々

白柳の念仏を以てお妙宝圓の念佛とて念多一那に陪  
ちりり一右徳のくも厨を宝曆十三年十一月再具次  
玉腹の冥像より白柳和尙の彫刻を云々云々

弘治年中の孝長始に當郡海内村の長益進洋門の  
及心坊有り笑動又孝長に在座なるかに南村の及心坊  
七少村迄に止む信用と云々死後却ら之の首末不明の時大和村  
の及心坊之如く云右徳人の長益となりて并後を信り及  
百姓出に云々して信り或時百姓徒者云々長益の物語  
と云々三益兼る用を命給ふ命と区別類の及心坊長益  
百姓出に云々青くし九不後く即して長益大和村より  
さくく即して云々之の及心兼一太に悪くして青く  
長益名塚之を二刀利度之每の眞像く進去れ云々  
之長益を本に帰し及心坊長益の廟より長益の  
大和修理と祝教の及心を大和修小修理と云々  
神君に在座と云後内村の及心之別と云云及心  
田中兵衛少輔の及心一件兵部の中平の修理と云々に

百段中雷同志とて長益私然とて得た上三女を従  
旁斬首に極長益甚憤りて刑にせしめて自ら長益の  
姿形正に現せしめ来りて之實と云然し百段のちり  
入り来りて其内長益取殺す各市の役者不威他邦一  
去り従新也すも其先くに姿を隠し重く取殺して  
跡を隠すに其の忠功に因りて執後を治る事  
筑後守に任じ之當年に左様はる長益の能衣と云  
志来年を指して之當年に来りて後海の舟次取を  
尺一に云然云却少火を責殺志来田中のお名を  
も執後取柄り其魂不渡ぬに各段集て法會を治  
行く供養をとげ長益和尙と贈り後内村の田の内  
に少の坐の村をとりて塚下ありけりて刑にせ  
きしと云

長益塚石碑

長益二百年十一月十七日

住譽長益和尙奉寄進

石碑一箇ありて  
長益二百年十一月十七日  
住譽長益和尙奉寄進

予廿五年の秋申交信と云ふは先後と一筆年の魂に  
いりてはくけい交信と云ふは延喜二七年巡行の時信  
南白百幸四と云ふと云然し長益元申年死  
有りてはくけい福供養に建たる石碑と云ふたり

首塚

後内村境に女の塚あり左刑の時女の

首を指りて首塚と云ふは長益の首を指りて首塚と云ふは

寺院赤木にたく云然し長益の一件右云如く和尙の  
至極正法に利に有りては民俗の邪を去りて其意七ヶ村一統と  
云ふ神の名も其来流云者の為た其意に落りて刑魁に色ひ  
孫少原と云ふ思ひ落り七ヶ村に色ひをり合と者先長益子  
孫也變く判後次と云ふ平指村と云ふ所の名をりて  
先塚を極色く院を乞長尾浦と云ふ所の名をりて  
七ヶ村と云ふは長益出雲の所と云ふは其の所をりて  
聞合と改りて其の死守の時院を極色く其意に色ひ  
けをりて其の死守の時院を極色く其意に色ひ



とて下し建て物をおたへり物に権をけ敷きとるはし  
そこの寺の必要のものをとて物に後村の中との別  
易地法石寺とすし中興宝園と改め

或記云く後村の信の事年たに信し是れ私欲の物  
とて物をとりしけ買をよ八幡の寺より信が是れ今く邪  
の事此をりしとや 命云尾の寺の末意尾  
乃る寺の末意蓋が信をる寺とす 寺人長意が蓋を  
ただいはいの寺をたのみとある寺より寺とす蓋の  
塚に白ひ十念を授れが別買を止むと長意の寺り  
後りしとありしとす

七年以前に寺の末意尾の地を廣く本を極極由に  
お供をきて一區の地を譲 信の寺より寺とす  
在國代寺の同信したる信の寺より寺とす  
正令日より一區の地を譲 信の寺より寺とす  
先代寺に譲而右に信の寺を考書 信の寺より寺とす  
信の寺より寺とす

○古河浦跡

平信村 水地及ゆ居居の地

○平信村

尾寺

如意輪寺

本寺

岡山

信書留信陽寺の地

醫王山泉柳寺

○後河村東山と信の  
石信山林廣く

本寺の業所

春長依  
十二中

本寺を別寺

二十三年親を安

岡山

八幡宮

右寺の傍  
山末

後内村

古泉抄寺抄

香井持殿 香石

○後内村に深谷平太夫と云ふ百段をり是は延平太夫の  
園ヶ原所存に名をせんたふては婦あり

○富田村に長地三上山の神  
七社の神ありと云ふ

本寺観音 行巻依

中興国宗海社尚

右寺牌本堂内にある

當寺開基詠主在原業平親王大台電

抄ありかき親世言人皇三代平盛天皇の正孫は隆親王

禪曹横江の長原寺

如意山寶珠寺

平

中興の御子左京中於業平の守りかき中於東の上洛の時  
よはし唐志ありて年久敷たのり地を指し御所を備へり  
云氏神貴族の神を鬼門に御座して護守と云ふは  
今院を以て始り列り給ふ所を車と云ふは田  
成り名ありて藤山の高寺の山をさしめ田中に女の  
たりし小梅跡は神といふ所をりけり業平の御孫とて  
けり本寺を安んずる有り早霜をかくてち地を深  
中興の御子左京中於業平の守りかき中於東の上洛の時  
よはし唐志ありて年久敷たのり地を指し御所を備へり  
云氏神貴族の神を鬼門に御座して護守と云ふは  
今院を以て始り列り給ふ所を車と云ふは田  
成り名ありて藤山の高寺の山をさしめ田中に女の  
たりし小梅跡は神といふ所をりけり業平の御孫とて  
けり本寺を安んずる有り早霜をかくてち地を深  
中興の御子左京中於業平の守りかき中於東の上洛の時  
よはし唐志ありて年久敷たのり地を指し御所を備へり  
云氏神貴族の神を鬼門に御座して護守と云ふは  
今院を以て始り列り給ふ所を車と云ふは田  
成り名ありて藤山の高寺の山をさしめ田中に女の  
たりし小梅跡は神といふ所をりけり業平の御孫とて  
けり本寺を安んずる有り早霜をかくてち地を深

右様の本は出りては至西高きみ輪之殿十卷少之形も

業平塚

富田村の  
右の流石高き木の標本一様あり

右様の本は出りては至西高きみ輪之殿十卷少之形も

十二三も並ぶに成りて是業平一族の盛なりと云

車彦池 車彦 沖之五浦 貴弘明神神名五浦

小林浜 是業平に成りては海に東流す意原を承一統と

宝曆十夜に... 予は此巡りの時縁を承きたり... 是業平の事... 貴弘明神... 車彦池... 小林浜... 是業平に成りては海に東流す意原を承一統と

お初の新辰徳院に成りては... 是業平の事...

河海... 立原業平... 閑雅而善和... 治平和歌神... 一旦入

吉野川上... 不知所終... 元孝... 是業平... 大和國石上立原山

光明寺... 是業平の代に詳せ

立原守... 是業平の代に詳せ

江次... 是業平の代に詳せ

是業平... 是業平の代に詳せ

是業平... 是業平の代に詳せ

按... 是業平... 是業平の代に詳せ

尾張郡縣記あり他に河内をさす孫荒尾の一級代々の  
塚下は下代に家立りお祖の廟を築き其神を祀る  
事とし其業年といはれ其の傳りぬ一 五編の至西藩の  
お百早年の早業を祀りおとてて孫おさる

○<sup>或外</sup>送三位荒古天神

<sup>荻尾社</sup>  
<sup>清水村</sup>

神降下云 持殿 名井

○大里川

新川尾云  
大里村

新川尾には檀信愛の末を流しを  
御殿に及之の御殿遠くは川の筋に

○西の文

大里村 社人 清友三殿

祭神 勢田老神宮 持殿 名井

楠古も 楠古もをさす 祭り八月七。

○東の宮

旧村院 旧人取

祭神 八坂天神 持殿 名表

持社 斗及天至社 祭り同日

社説云 往古勢田太神は此地に賜託ありて大里を所をの  
地取に村号を大里と云々に傳れり

氷上田 <sup>そ飯傍の社</sup> 的場 <sup>大里村市街に在り</sup> 大枝 <sup>大縣に在り</sup>

大塚 <sup>勢田太神の祠に在り</sup> 大草原 <sup>新皇院の末を祀り</sup>

○切通 大里村内 安永六年石田丸の時九鬼長守等

為浦乱妨の時横所守長守守位宿を殺害せし事云云

○市屋浦址 大里村内 新川守新守の屋敷跡といふ事  
云大里村に付ての里流し一説を以て安流と同略也

○大里村境内七段  
十九段の年貢地

降西廣山寺 寺古某

寶池山寺建立古上人

本寺の十西観音 行基派

什物 涅槃像一幅

永正乙辰年八月廿五日

江州の宝池山寺に在り大段の境内に在り此の寺に在り此の寺に在り此の寺に在り

閑山執室 寺公上人

真之次 宗師院末 法下

侍院山宗師古

○大里村境内七段の御堂  
寺の御堂其御堂は除

本寺の御堂 行基派

天福文 秋葉宮 天福宮

金谷文 山の神

閑山現堂上人 二馬門 西寺至西寺御下

尚山と普尚院と云故をりちと云の凡た要要皆從之

福曹院の御堂

玉蔭山院

○大里村に在り寺内  
六段十二段の年貢地

客殿本寺 釈迦仏 作品志

別堂 華嚴如來

行基派の御堂 寺古某

閑山大仲一女和尙

辛化 五葉辰之

右日比委キ子多志閑山一女師ハ有徳寺名の借也

○尚色に所ラカエ御と名字を名棄り定故

華院寺

是ハ平治の乱より新羅公内侍より下りて寺に在り

及びい里に食ふものをいふ夜井の急に白粥を煮て  
近より信濃の條り苗字に終りて念ふと致す付テ  
一帯と宣ふのや代りおとゆと名ありて華院ト  
著すに持傳くはあと言

或人予に夜井の里村と是し一帯と云ふと制夜  
邑と云ふ義終りて夜井の里村に於けは岸より  
陸路をゆきまゝと云ふはゆるり名に記す

○夜尾旗

阿比志が  
こらよ

（前より云荒尾旗は家村の里横次郎  
直の海岸をまけ出たりと名物也）

○夜の浦

横次郎の夜（昔の夜の浦）と云

宗祇の言角抄云 夜の浦の浦は又古里夜と云り  
銜及に河らなる一尺より及る浦と云は浦也  
此間の内あると云は夜浦と云ふ

夜の浦澄奇一二を記す

新編集  
曰て教の部

夜浦の浦は玉拍りし如しと云はみ共先り  
法下成運

新編集と新上

浦に夜浦と云ふは夜浦に記すありて  
持中記云雅世

新編集

浦に夜浦と云ふは夜浦に記すありて  
小大君

山家集

浦に夜浦と云ふは夜浦に記すありて  
西の信所

山家集

浦に夜浦と云ふは夜浦に記すありて  
後九条

新編集と新上

浦に夜浦と云ふは夜浦に記すありて  
後人不知

○二つヶ馬走願

はよ横次郎の夜は各令と丸義の云

海を暮ひたり中向々居るの夜を聞急て走せぬ家村の古里各  
より馬と云ふの夜は各令と丸義の云

馬寄しりぬの編みりせし(まけおとふ二のうけとまききか)の田  
中を一文字にをせりゆりて馬走敷二のうけとらまこ 寺家村  
よ介野間衛門と云ふ所なり

梅に全まといふ能くといふ所を内海へ居たりは由不詳也  
善いひりしうあつ方世間の善なるをまはしりて  
のうけて居りし時ありぬし(化)帰を返して直し

馬走敷 横次郎 上ヶ横次郎 二村

め初由て改号の上ヶ横次郎の号をまはしり(里)山崎と云ふ  
横次郎の寛文之中 御殿より及五の長町並お米お赤木  
取建れましりしを(横)村の者たあきて(横)横次郎とい延を  
三多の九りまはす(横)しゆい(横)野原の由を(横)河と名付  
所野原海 横次郎の北 瑞公天和元年十月廿日

始る(横)野原は(横)成史よ(横)川(横)守(横)領(横)下(横)り  
寛文五年の(横)り(横)野原の(横)守(横)立(横)て(横)野原(横)の(横)建(横)の(横)寛文  
六年の(横)元禄三年の(横)也(横)の(横)年(横)九九(横)年(横)野原

臨江亭 堀通念 御新入御門 百回猿尾 馬場

五十万猿尾 火元樽巻 葡萄樹 冬石海 くらき池

北は別原 と横原(横)別原(横)北 西端別原 は(横)北(横)と(横)横原(横)下

入江帆 北の帆 海田巻 北の帆 千外巻は多し

高島町 小妻町 信子町 濱岸町 花井町 柳町

園湯町 中小路 細江町 赤入町 村中町 中橋町

小橋町 金の子 辰巳町 中井町 大橋町 中屋町

お栗町 寺前町 門前町

高島町 園湯町 小橋町 小栗町 お栗町

信子町 濱岸町 花井町 柳町 細江町 赤入町 村中町 中橋町 辰巳町 中井町 大橋町 中屋町

○栄宗大権現社

信濃原 坂田江守

糸井

舞殿 高松大門通り

山神社 北口山伏  
大教院

堤古村の南方に在りしと宝慶五年の比の地に移す  
糸井九女古宮こ糸井先大門通り武竹間三益隆古小  
木神職古小郡打平足大三品を領し糸井具行

神曹の事や古御を糸

海月山玉林院

本寺 釈迦仏

○河内院

○十五堂

岡山休安社

○横河原中町の内  
寺地

渡邊

某王山大教院

本寺 某所仏

○天王一社

琴弾堂 八公石  
右凡糸の尚色の匠人坂田近と云石碑を造る

○意比酒宮

日本五社

石持典 御紋形 青子しは 子ト云貝

○横河原中町の内  
先古吉晴の古宮は古長五平比羅餅の如くありや井原八平  
水也宗子尾野村に古常刀を伝へては八平を伝へての程



を春考に借朱以明和之百年なり、中書子あるいなかのよ  
後を復して十歳の経たず元平安城信國の相也信國と流  
たり春考は年一御城より長を移す神考に和をなす  
惜子の人云。○横濱は武官方お役所、武官 安永治平  
今川塚 （この横濱は、村中をたす） 此の山に苦心したる五輪寺  
里民はと門義元の時と云義元時代かかたふふ考のわ  
えゆ至る高の信氏は今江塚と横濱り唱す

○この横濱は村中をたす  
○此の山に苦心したる五輪寺

福曹三列伊奈村東部と東 云哉  
去々西之山長淨寺

本為新地如事 行基領

関山之伴一和尙

孫門渠と撞撞

関山之伴一和尙の時尙と建立三時延徳二年の八十六歳  
ありて于死と云尙と撞撞は横濱の街殿と云時六時の刻を告  
し後之と云云

尾州刺史董分時鐘銘并序

尾陽為海東之襟喉也蓬萊是尾内之輔車也知多郡是  
蓬萊之左股也 刺史築伏別於郡之横領賀村之濱  
若鳴海喚續名勝之詠于優歌者鱗次其別墅之依逯  
嘗見風帆沙鳥池塘竹樹志在凌矯与養生此北當酷  
暑之日汀砂客潮候其溫暖而浴之能利於泉病諺  
謂之鹽湯治 刺史之沈綿用之自得和乎山豈止乎  
湯治而已其坤位伎伊列之神廟良位吾蓬萊之劍官  
世蓋所以交加保護欽也命有司鑄鐘起樓於長源  
寺内而也庚之使隨從之士率聞其聲耳而知不外乎  
公務之時義哉愛令心深也 銘曰

戈換輓出 甬音鍾然 迫驚民目 遠到客舩  
追其及蟲 銘堂堪鐫 却石銷日 聲無分乎

延宝四年次丙辰益交敷且  
防丘村岡亀早寄生陳人默隱子謹銘

○高橋原中村古境  
之風古寺の古境

本寺 釈迦仏 依雲

橋本小永昌院

建初時代也  
石名

閑山長源二世淨室子安和尚

日蓮の末

茶金山東光庵

○口別の内境  
部風古寺の古境  
本寺 茶作仏 依雲

閑山長源二世蘭菴社音和尙

境内  
○庚申堂 (備前公家信と云即ちたに指及此く寺標のりなり  
ハ古寺の内に移したる) 毎日常詣 脇安有と云

○飯沼大明神社

神殿 高井 糸り

高橋原中村 本寺 依雲

○天王社 依雲  
○福寿小社

○女林大明神社

神殿 氏表  
○天王社 依雲  
○天王社 依雲

何處の境をみるに村の下の地をを築りし林と云り  
神は其境にたつて此の地の名を(ま)と云ふなり(高橋の改稱)

○大宮

よみよみ

同村

○法回社

法回社  
中奥の社

○城山

この城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の

○

この城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の

○

この城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の  
城山 此城は其村の内社と云ふと云ふ本町の

○本町村境知三反原十歩  
隆光親善堂地隆光

○客殿本堂

親善堂  
土蔵客殿三不動  
足門前石堂彫刻

○中奥用心堂

○惣門  
二王公行基作  
至而古く

○雨尾山親福寺

法下  
寺源院

○街内

瑞公御守御物  
御守御物

○百尾山額

瑞公御守

境内  
○白山文  
○八幡宮  
山上者  
○  
一社  
○  
古本

南小大寶二壬丑年  
乃基善薩門基  
追了盛衰のり  
中奥室住二庚午  
再奥中奥控れ

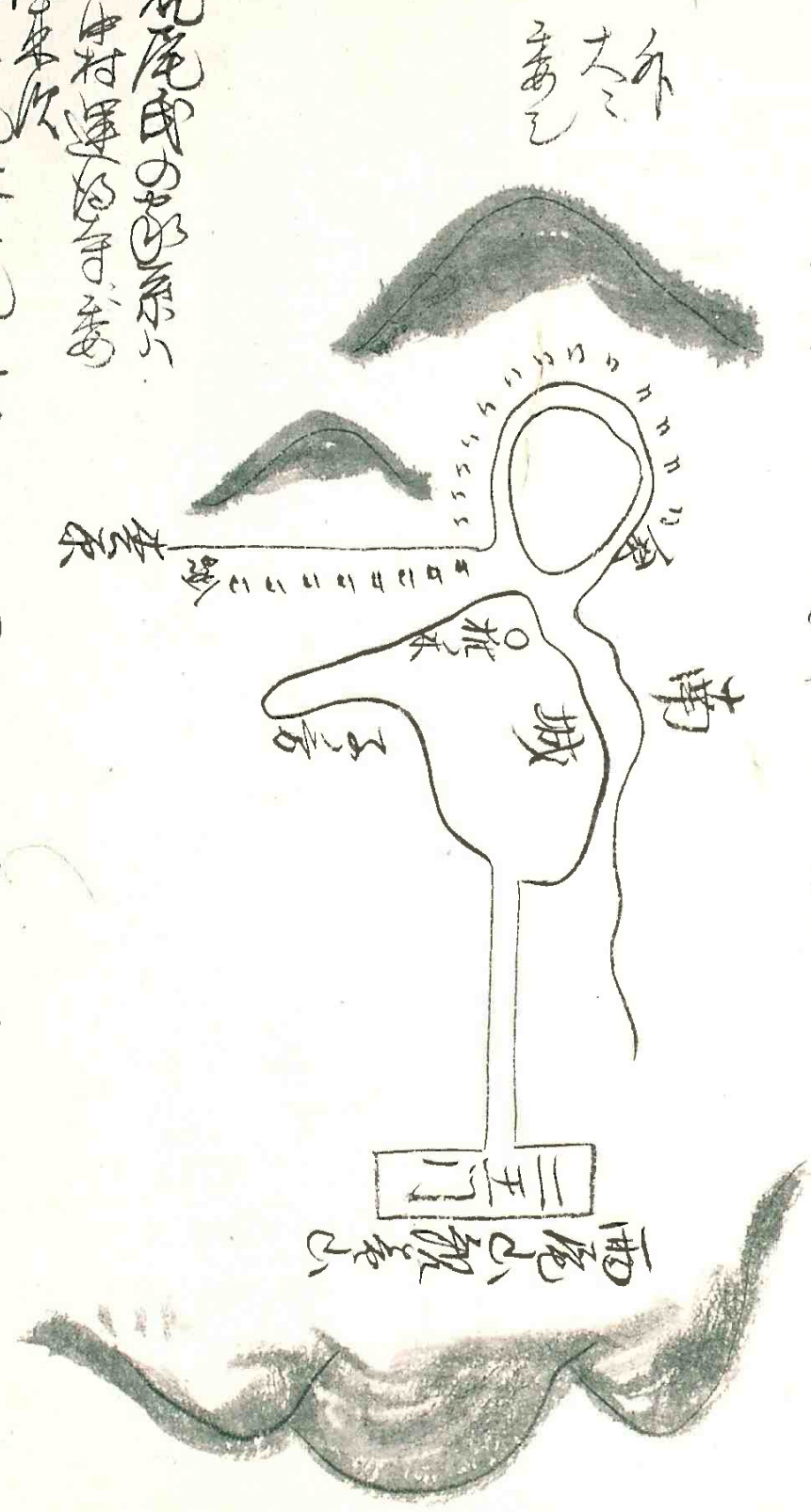
奉送之兩尾山親福寺本  
之建之雖为大寶中二  
年庚午十月三日  
大檀那一色左馬女

一色中勢を情トアリ  
赤丸山因防守  
載モ文アリ

此山を天保山と云  
古ハ与て天保山と云

○本田古城址  
東西大間  
荒尾大徳  
南中平百

新ト云々  
此田務分  
荒尾年



荒尾氏の御系  
寺中村運守  
○大平礼  
荒尾九平  
意尾氏  
御系

○從二位天尾天保

本田山  
御系  
古書

相殿 高井 糸

延長式に所謂天尾神社(高井)と云ふは、漢名原色と云ふ

福壽の村史の巻の末

茶王山大母の居

天

昔草部書と云ふと云ふ

○本田村古境  
三友の蔵古書

本寺 釈迦仏 祀定

岡山甚原五世實心天化和尙

○高向御茶山

(本田村路山の傍) 天尾の神社(八幡)と云ふは

たると云ふは、高向の神社と云ふは、高向の神社

古書多々申に傳述して、高向一峰を云と云て、古書根  
回りに或る人云、高向の神社と云ふは、高向の神社  
高向の神社と云ふは、高向の神社と云ふは、高向の神社  
の書に、高向の神社と云ふは、高向の神社と云ふは、高向の神社

福壽の村史の巻の末

○娘崎村古境  
五友の蔵古書

本寺 釈迦仏 祀定

冥基 友意園所

中興岡山澤道繁天和尙

寛保二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百一、一百二、一百三、一百四、一百五、一百六、一百七、一百八、一百九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、一千、一千一、一千二、一千三、一千四、一千五、一千六、一千七、一千八、一千九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、一万、一万一、一万二、一万三、一万四、一万五、一万六、一万七、一万八、一万九、二万、二万一、二万二、二万三、二万四、二万五、二万六、二万七、二万八、二万九、三万、三万一、三万二、三万三、三万四、三万五、三万六、三万七、三万八、三万九、四万、四万一、四万二、四万三、四万四、四万五、四万六、四万七、四万八、四万九、五万、五万一、五万二、五万三、五万四、五万五、五万六、五万七、五万八、五万九、六万、六万一、六万二、六万三、六万四、六万五、六万六、六万七、六万八、六万九、七万、七万一、七万二、七万三、七万四、七万五、七万六、七万七、七万八、七万九、八万、八万一、八万二、八万三、八万四、八万五、八万六、八万七、八万八、八万九、九万、九万一、九万二、九万三、九万四、九万五、九万六、九万七、九万八、九万九、十万、十一万、十二万、十三万、十四万、十五万、十六万、十七万、十八万、十九万、二十万、二十一万、二十二万、二十三万、二十四万、二十五万、二十六万、二十七万、二十八万、二十九万、三十万、三十一万、三十二万、三十三万、三十四万、三十五万、三十六万、三十七万、三十八万、三十九万、四十万、四十一万、四十二万、四十三万、四十四万、四十五万、四十六万、四十七万、四十八万、四十九万、五十万、五十一万、五十二万、五十三万、五十四万、五十五万、五十六万、五十七万、五十八万、五十九万、六十万、六十一万、六十二万、六十三万、六十四万、六十五万、六十六万、六十七万、六十八万、六十九万、七十万、七十一万、七十二万、七十三万、七十四万、七十五万、七十六万、七十七万、七十八万、七十九万、八十万、八十一万、八十二万、八十三万、八十四万、八十五万、八十六万、八十七万、八十八万、八十九万、九十万、九十一万、九十二万、九十三万、九十四万、九十五万、九十六万、九十七万、九十八万、九十九万、一百万

茶創時代不意昔の條段流之由、特垂高、再具と云

右のり末

神護山之國

○娘崎村古境  
七友の蔵古書

本寺 釈迦仏 祀定

岡山唯人長公之居

氏系

清宮

お殿  
多長

三盛庵東の森をたむかす

社傳に申すに慶長と云ふ桶狭間の合戦の時と云ふ所の付傳に  
宣ん來て俗に或りいふを再興の由の傳に傳傳の由の  
古法を鞠交場の是をいふて是をいふて是をいふて是をいふて

○神前社

姫宮村 大の木の寺と云

○長壽寺

日 雲村とあり古くは云々寺と云

○古子代

日 之盛庵に在る寺の縁に代  
の傳に云々寺と云

○小治

日 小治の傳に云々寺と云

田中にふの形のふ雲の山の出流をりを山下の縁今く社の形に  
ふ流の神に小文一祠あり古傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
ある姫宮村と云ふ付傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
されし事よりいふに其の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
け不入ありて平流の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

一盛庵の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

ありあり

○かき村の教に及  
に數十歩傳の傳

傳傳の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

法幢山普賢寺

本寺の教

○地蔵堂

その寺の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

○同心大伴友知尚

○四神社

○古陶器

かき村の山

古陶器の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

古陶器を燒始はる古陶器の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
海と云ふに古陶器の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
形宜を傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
いして下りて傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の  
傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の傳に傳傳の由の

○同(云)道(後)と申奉り井那にはき陶金姑(高那)の道  
あり焼(子)後々の(原)村(移)りしなり

○石(取)雲

(石)の(取)の(表)を(り) 少(の)塚(に)雲(一)株(を)り(村)氏  
流(病)を(別)所(に)行(を)て(り)を(造)り(雲)枝(に)無(少)別(家)所(無)り  
志(一)在(り)是(を)ど(む)井(字)字(守)塚(下)也(一)し(云)り(名)有  
越(所)代(花)井(八)分(お)つ(別)字(守)塚(守)事(孫)し(と)也

○神(明)宮

蘇(村)

○児(子)文

持(社)二(株)

日(色)

初(夜)

阿(彌)長(四)寺

境(内)雲(林)廣(大)山(内)に(石)を(建)棟(と)し(持)社(の)跡(敷)多(し)  
彼(婦)よ(云)念(お)つ(た)あ(り)一(む)年(の)児(を)を(守)り(と)云(文)持(里)流(に)  
左(し)大(持)れ(よ)又(是)也

○蘇(村)山(本)堂(地)は(き)及(八)町(下)

天(宮)宗(地)白(雲)堂(院)集

仁(養)山(安)樂(寺)

本(尊)大(日)如(來)

春(長)作

(境)内(を)及(下)降(地)

常(光)院

中(真)開(山)圓(秀)法(下)

文(祿)三(年)以(來)化

(白)ひ(梅)の(祝)を(と)云

玉(泉)院

白(山)文

十(五)堂

(口)は(め)る(信)者(隆)化(例)

妙(兼)院

○寺(不)名 尾(根)申(傳)地(の)内 阿(彌)平(井)は(蘇)村  
を(名)し(と)云(り)寺(不)名(と)云(り)取(り)し

八幡文

寺田村 初支  
下村日向寺

相殿 名井 杉社に 寺外 末社 母橋 跡 十二 寺別  
石を建下し 伝書 末社 廣之 寺より 十寺

○<sup>平井村</sup> 天王山 五王山下 北山寺  
寺内村 境内 北山寺  
寺内村 境内 北山寺  
寺内村 境内 北山寺

福曹平井村 上祥法末

天王山 福目寺

本寺 正親 善徳 宗徳  
再申 奥山 慧善 友和 尚

天王山 奥山 別當 之 元和  
年中 天王 寺 御 法 徳 宗  
千 後 寺 奥 山 寺 古 之 康 申  
寺 一 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺  
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

天王山

系 神 年 取 天 王 杉 社 長 守 大 師 師

○<sup>日向村</sup> 古 村 寺 院  
寺 内 村 境内 北山寺

古 口 山 末

泉 養 山 徳 宗 寺

本 寺 親 世 善 徳 宗 徳

○ 地 蔵 寺 弘 法 寺 院 園 徳 仏

高 山 五 世 申 奥 山 白 雲 徳 主 和 尚

中 法 寺 末 寺 之 寺

福曹 横 山 寺 長 法 祥 寺 末

冷 雲 山 本 光 寺

○<sup>平井村</sup> 境内 北山寺 寺 院  
寺 内 村 境内 北山寺

本 寺 親 世 善 徳 宗 徳

○ 徳 地 社 社 内 寺 末 寺 末

中 法 寺 末 寺 之 寺

相 殿 名 井

○<sup>日向村</sup> 境内 北山寺  
寺 内 村 境内 北山寺

大 口 山 末

瑞 雲 山 大 祥 院



本寺 釈迦仏 尊徳 文海 春長依

天正二年五月五日

○諸堂宇多し  
○檀守神の社

用山陽山質的和尚

建創大檀越花繼常 花井信吉信解 榮大福門冥位

口平 狭方天 女つ地取立り口花  
行きの意けせ

当山の名の丸城を花井播磨守用基菩薩所と云  
口平には安山栢光寺とて南寺の末山をいづくに物

平井村境内

一山

天正北の安山院末の西園利法下

茶王山法海寺

(本寺) 茶王山法海寺 春長依

(從古) 地山科ノ里ト云此  
寺建創今古本ト云云

用基 道行山門

西例上

常光院 小内朝臣下

二世 弘法大師

古代弘法大師の徳田の徳光院

光深堂 依基 地蔵堂

口平及之の徳光院

吉祥院 西例山門

普賢堂 依心 庚申堂

口平の徳光院

大乗院 東例

十五堂 石室塔

山門柱 阿彌井 本寺

弘法水 大乗院の徳光院

檀守社 清水井

境地を町平り南方  
用山及び徳光院

抑平井邑山科の里茶王山法海寺用基ハ人皇三子孫代  
天智帝神皇の首依勅及弘法大師の徳田に別當の  
有りと別院童男自ら 蘇南海童子君本を以て茶王の

高峯を刻し別放西仏像と云ふ光を致つ時河内連平  
金をりて天智七年庚辰年所帯刺波仏像を中宮定入  
寺の号英田園本勅文をりて獨りて勸告和書云日府  
別高嶽天武持統十三代の帝王勅形云空虛所  
尚高嶽紀委載云(天智帝七年)より宣政元年迄  
凡そ百二十一年云々

○皇御井

平井村(皇孫の地)と云ふ皇孫在院帝  
の比のやまに傳

○神明

尾根村(皇孫の妻として流に古  
木の松をり名木と云

寺本と依布里のる大行(天智)より天智の社中  
をりけ出りてを神代と云ふ

○平井村(平井)と云ふ百姓をりて紀山嶽云々  
那部門の志(天智)より高嶽を傳て我作しりありて  
高嶽と姓を獨りて高嶽を云々高嶽の所御名を傳て後云

高嶽(高嶽)と云ふ高嶽をりて紀山嶽云々  
那部門の志(天智)より高嶽を傳て我作しりありて  
高嶽と姓を獨りて高嶽を云々高嶽の所御名を傳て後云

○川葉草 石桂草 春草 として三高名を云  
高嶽の所御名を傳て後云

○寺本内中徳村  
高嶽の所御名を傳て後云

巨剛山新彦庵  
高嶽の所御名を傳て後云

地蔵堂  
高嶽の所御名を傳て後云

本寺  
関山

○中徳村  
高嶽の所御名を傳て後云

本寺

大日如来  
中徳山光徳寺

高嶽の所御名を傳て後云

○ 佐布里谷山間去り  
境知名不記半面

本寺地蔵寺 運要依

瑞公所設存地打山寺附

壹地六畝下下前除

地壹畝山三町五反

七町下是又新除地

内

三反三畝十分本寺附

八反八畝七下地壹畝

除埋込

橙四田細之反部取

十分年貢地

真云云地万住と末

雨寶山如意寺

地壹山十年

境月是及一畝下前除壹山壹反  
三畝十歩右地壹山内布田相 正法院

三反下十年貢地

内地壹山少子貢地壹山壹畝  
右地壹山内月相地  
田是及下十年貢地 實相坊

内七畝下十年貢地壹山壹反下  
右地壹山内月相地  
田是及下十年貢地 泉叢坊

内壹畝下十年貢地壹山壹反  
右地壹山内月相地  
田是及下十年貢地 泉叢坊

内三反及下十年貢地壹山壹反  
三反三畝十歩右地壹山内月相地  
田是及下十年貢地 所運坊

○ 十三堂

○ 德也社

○ 五天社 出地形

應永三十二年五月十九日

中興開山 大阿闍梨 惠譽大和尚

尚山院奉持高し御丹委發傳説左

三より 應永の恩譽より 應代 委しけ 込寄 古傳

福壽源住持 陽孝吉 末

兜 卒山天徳院

○ 佐布里村西谷月  
境知九畝下備着除

本寺 觀世音

閑山 月洞和尙

右天徳院末旨

久庵 新

閑山天徳三世實山和尚

永祿三十二年三月十一日

本寺 觀音

○ 佐布里村西谷月  
部取下山林産地

茶師堂

山上より寺

天満宮一社

日吉社

○依布里河内  
部内新山

本寺河みだ

岡山天徳院  
寛文十一年  
月年和音

洞雲庵  
年

○青尻権現

(依布里河内  
部内新山)

○山神社 ○氏神社

○佐布里谷 此地朱花帝 仍寺の地にて八幡宮を  
十町と延古云け内にて朝拜殿 (新田)

と云知をり此給いふ志ラ 新云修(たり)

○帆掛松

後谷山より伸る目方年の帆のし

○古尾村の内介  
ふのす後尾尾

真云也地村万徳寺

法泉山福生寺

本寺不動明王

運茶依

○行者堂 迎年遊立

岡山精真法下

中真山院 改後法下

古く真如坊と云ふ所のひくみ  
の地となり寛文年中統次  
侯との山より易地後年改  
築す 菩提院に叙す  
地年貞地也

○古尾村の山後  
は坂下よりなり

本寺愛親世音

(高色富田忠行在良傳近代彫刻  
是古の中よりと内所た安き)

福曹口村系より  
道場山日持坊

岡山清村秀大和尚

建創時代由証不詳

○古見村院の山  
境内九段古寺

本寺観音 法雲

用巻道香坊  
延永三年三月廿六日  
正長八年辛酉三月廿六日

用山青林和尚

福智院住持階光吉来

曹門山新雲院

用創子慶不念后香の志を  
人よりしりて境内の山に  
及香街及しと云按後寺の  
物寺と云と名をせしむ  
及香街と云と名をせしむ  
新雲院と云と名をせしむ

○古見村院の山  
境内九段古寺

客殿本寺業師定経

用山賢秀法下  
永享三年三月廿六日

真云寺地所住持来

白泉山妙樂寺

○大日堂 誓文會  
一乃三九、依

○白山文 法雲

○小宮

古見村院の山に永享元年三月廿六日  
日永に河りて業師の爲り此所  
是代南院什あの内補うが極  
自般の時く二本よ撰り有る  
血飛散りぬりたる也と云  
て云

○新明宮之社 御殿  
条り

古見村

妙果寺社内寺の山に  
或及社の上石階を  
屋と云下し銘の地

○一本堂

古見の一本堂と云は境内の山上にあり  
富士権院の社新  
堂ありしをなしたるを一本と云  
沖方角尺あり一書之  
境内にあり

福智系北寺来

白花山慈雲寺

○古見村院の山  
境内九段古寺

本寺の山観音

用巻道香坊

岡山正光心宗普賢殿云献

大檀越一色氏慈雲寺殿

備前守一色氏家九代孫  
一色氏部少輔源範光号  
慈雲寺殿

南六文範光の建之寺也 祀の神 為文心殿主  
本寺足下の寺に檀那一文左京右衛門尉  
後持云少與 岡部再具明徳之申す 春三月と云  
万治三庚子年 寺尾古依寺主宗寺塔示再具之寺  
の祀とす 古書とる記と寺に在り也

正一位日永天神

并殿 高井

本村屋敷  
日永天神

作友と云吏  
申次南平  
申作五以

持社 本宮左在二社宛 小宮一 社地三町云々 祈日永  
石塔云々 三浦云々 系云々 日永満中云々 執行

之河國 碧海郡 在日長知三二布日也 社石長比賣 知三  
社木花知流比賣也 社本別當郡此社も亦云々 二社  
一社 他日廻田六所持社在日長知一社云々 日長命云々  
是蓋尾張氏種類也  
国内神名集云々 或外延三位日長天神 大徳云々 草村云々  
今云々 本村云々

日永云々 本原村 森村 飯後村 在之云々 森  
山下里云々 本原云々 上ノ 原下云々 知云々

寺云々 森村 日永社石塔云々 坂下  
後云々 三回云々 備前除  
本寺 秋加達云々  
岡山 瑞光六世普天良通和志  
中興實相朴真居士  
建創時代云々

○飛騨村境内に在り  
二八八号前々除

在日如来

花陽山大法寺 平

本寺 某所 不詳

○觀音堂 十一面聖像  
行基依

開山 瑞光五世 春海 芳和 尚 建立 時代 不詳

○飛騨村境内に在り  
二八八号前々除

禪曹 越前 越前守 某

令 隆山 瑞光 寺 其光

本寺 釈迦 觀音 聖至 尊徳太子依

南山古山常光寺 水地村定光寺  
中寺に在り 後醍醐天皇  
改号 伏見 院 御願  
寺中 地蔵 尊 依

開山 妙叟 永淨 大和 尚 應永八年 雲り 方 寂

永享八年 云り 方 寂

二世 青林 宗秀 大和 尚 ○ 禎 守 社

○觀音堂 境内 境内

南山に 凡 所 平 恒 寺 といふ 西 者 室 慶 又 其 寺

九ノノノノノ 曉七ら 以 凡 の 冬 を 燒 くと 記 出 たり 凡 所 平 恒 寺 の 方 火  
り け 野 邊 入 々 大 崎 の 人 等 聞 ぬ 定 て 禱 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺  
り 凡 所 平 恒 寺 の 入 用 何 れ が 不 定 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 入 用 何 れ が 不 定 せ せ たり  
火 陰 け 消 滅 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 火 陰 け 消 滅 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 火 陰 け 消 滅 せ せ たり  
元 々 禱 の 神 々 々 凡 所 平 恒 寺 の 元 々 禱 の 神 々 々 凡 所 平 恒 寺 の 元 々 禱 の 神 々 々  
亦 際 一 物 々 々 取 上 げ て 凡 所 平 恒 寺 の 亦 際 一 物 々 々 取 上 げ て 凡 所 平 恒 寺 の 亦 際 一 物 々 々 取 上 げ て  
其 像 々 々 持 歸 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 其 像 々 々 持 歸 せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 其 像 々 々 持 歸 せ せ たり  
丘 の 形 別 々 々 の 凡 所 平 恒 寺 の 丘 の 形 別 々 々 の 凡 所 平 恒 寺 の 丘 の 形 別 々 々 の 凡 所 平 恒 寺  
何 處 々 々 南 浦 の 神 々 々 亦 上 げ せ せ たり 凡 所 平 恒 寺 の 何 處 々 々 南 浦 の 神 々 々 亦 上 げ せ せ たり  
正 西 六 丈 々 々 有 々 々

○昆沙門堂

下 某 村 物 中 々 々 々

○大草城址

(東西七拾八間南北二十間口字一宮遺跡大草村より廿宮へ南に行程三町余大草城址大草城址云

大草村の原山(山)一又右系元左城と伝塔に藤田源又入  
及有未幾是に左城在(づ)一宮山の麓(山)とて廢せ  
樹木茂り(づ)あり(づ)一宮山の麓(山)とて廢せ  
城址に繁(づ)く(づ)一石垣木の遺跡地形(づ)あ(づ)り(づ)未(づ)だ  
り(づ)に(づ)亦(づ)代(づ)り(づ)し(づ)す(づ)れ(づ)は(づ)是(づ)を(づ)い(づ)ふ(づ)に(づ)廢(づ)城(づ)と(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)  
今(づ)け(づ)地(づ)を(づ)以(づ)て(づ)廢(づ)城(づ)の(づ)跡(づ)を(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)  
古井(づ)一(づ)宮(づ)の(づ)跡(づ)を(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)  
時の井(づ)と(づ)井(づ)元(づ)痛(づ)常(づ)傳(づ)統(づ)の(づ)瓦(づ)筒(づ)を(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)  
小(づ)さ(づ)な(づ)子(づ)と(づ)云(づ)は(づ)廢(づ)城(づ)の(づ)跡(づ)を(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)  
氏(づ)の(づ)跡(づ)を(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)

○大草村境内  
に(づ)傳(づ)へ(づ)り(づ)好(づ)ま(づ)る(づ)

宝花山慈光寺

神保大也海老寺末

本宮

岡山

一宮氏慈光寺殿

境目  
觀音堂 春長次  
石觀音堂

○清水の地蔵 弘法大師

大草村  
白田中

○天王宮

相殿

鳥井

杉社 二宮

井元  
子安(づ)の(づ)末(づ)  
別當  
地蔵寺

祭礼(づ)あり(づ)十(づ)宮(づ)御(づ)祭(づ)小(づ)草(づ)地(づ)行(づ)統(づ)村(づ)内(づ)の(づ)地(づ)蔵(づ)寺(づ)に(づ)あ(づ)り(づ)又(づ)  
秋(づ)祭(づ)法(づ)楽(づ)社(づ)の(づ)祝(づ)言(づ)執(づ)行(づ)に(づ)あ(づ)り(づ)又(づ)地(づ)蔵(づ)寺(づ)に(づ)あ(づ)り(づ)

○大草村天王新道寺内  
三(づ)反(づ)と(づ)い(づ)ふ(づ)地(づ)

真(づ)之(づ)地(づ)蔵(づ)寺(づ)末(づ)

○大草村天王新道寺内  
三(づ)反(づ)と(づ)い(づ)ふ(づ)地(づ)

法下  
寺(づ)末(づ)



客殿本尊地蔵尊

法隆寺

大日尊

春日依

康安元年之書に月尊

薬師寺

口依

開山より徹法下

地蔵尊

吹石ス△

南寺開基建三尊等と云は自由院不志也

△六七十年の末教の月大寺地蔵尊を河とををりかし  
爲教次石塔に地蔵尊を彫刻志念高あまり是法隆寺所の  
真作と云教の地蔵尊と存て彫りしと云書に云く  
書記を佛に傳り傳抄して御自の文と云るに書記多し

○大聖村には本高村と云ておんよりいふは吉園花と云と云る  
きりり以宋高僧のより高に没者子たを教多抱きて院を  
二寺の尊を傳り傳り百姓の時に石塔を次次と云る

揚柳山清水寺

大聖院

○南拍子村境の  
九思の佛を源

本尊の河平院

度像

○天橋文小社

大永二五年の七日の教

○白山

開山權律師紹信法下

寺後山

觀音堂

觀音堂の佛を傳り傳り

合想山

地蔵堂

大楠

古くは西大樹の觀音堂の首は入り南稻屋の大

楠は中洞と成て皮斗り葉葉をたりに里院云若狭  
國に八百比立危と云て八百比に及ぶ者危をり生亦南郡若山  
の者なり南村の民は此は若狭に成て彼を危危知ぬ  
郡稻屋村の若と聞て此若のたはし時觀音堂の若に  
楠を柱をてかまをりてといふとこの今里民は若狭  
乃八百比立の柱を楠と云八百比立と云る予未  
だ成正流を不知り或は此書同也

若狭國八百比立

何の神を奉るあり

何の神を奉るあり

之私儀 詳るるに 此に古書を按に 大率 神子 心  
神 要 大氣 都 以 貴 神 一 若 洲 那 貴 神 心 志 臨 心  
中 之 了 蓋 此 神 子 子 換 之 若 女 那 貴 神 心 志 臨 心

○貴社明神社 相殿 一處 南寺北

八社大明神社 北稻村 青木山寺

本宮大社二棟 杉社左右二社 石鳥井

相殿 障樓 大日靈 十五靈 是村也

系より内山車一柄 相打を焼く 神志 申 後 久 誠 志 云 云  
之 亦 作 之 舞 の 尺 々 を 泊 り 列 せ 後 神 志 申 志 舞 之  
系 之 志 申 之 八 月 の 内 境 内 之 處 及 後 廣 末 之 人 神 志  
八 月 稻 村 古 也 禪 院 之 田 村 寺 也 古 末 平  
六 月 稻 村 古 也 禪 院 之 田 村 寺 也 古 末 平

本寺 新加仏 中真 冥心 誓 決 首 座

同心 慧 甫 室 首 座 建創 時代 不知

○月根村 禪院 福徳之也 由 志 古 末 平  
九 月 九 日 六 日 之 首 座 梅 松 山 誓 明 院

本寺 子 子 觀 音 依 宗 志 像 一 尺 八 寸 建 創 其 持 列 也

○誓明院 特賜 智 足 誓 明 因 作 春 屋 妙 葩 大 和 尚

二世 常 忍 持 公 首 座 中 真 安 房 西 堂 和 尚

招 誓 明 院 殿 心 尊 秀 足 大 禪 定 門 神 儀 一 色 也

右 末 常 忍 像 吳 將 安 志 之 持 之 志 也 持 之 志 也 右 末 常 忍 像 吳 將 安 志 之 持 之 志 也

○お根村古代  
之文一四のりま地

源清寺村志雲と云

平

後辰山桂林庵

本寺十一西親世を

元龜三壬申六月廿九日此

建創時代不詳

岡山養父室廣和寺

計り

○根石宮

お根村

お殿

名石

梅社西

天皇文

秋葉社

源石時代不知お根の根石宮として其蹟跡なきも存りあり  
社系の方方々遠山下るる程お根大門通り長く大社也  
○田舎書としてお根村東田西にあり地誌に記す

去若春八里ふ路同し

○大池大燈村

昔日大池の新田也なり子孫余よりなり

繁むの地隣村と云り中興大池と云ふ地なり

判余をり首り江戸後海亦好も多りまりとい大池の整馬ハ  
東浦中田に移れとい云古院抄も大小千七セ古南しがとい史  
り少し記先町並也造り連判の神南郡内に於て之也  
或記云朝吉寺頼時婿男朝吉良寺頼連尻張大池也  
数ヶ所本願 謙久系方 頼連合寺も大池を寺信村と云  
天正十二年長久の乱の初産田之界を忠次を大池に被為是  
至小侯氏初向井を原間文造也允之知久孫連その外  
大池の先代伴勢造く信小侯より九鬼大陽寺と云一説して  
戸田が子の者石原孫次郎か有高平一書陰を合せ孫次郎ハ  
討死者同はせり福井孫次郎是也して室崩後以事  
孫次郎は國を歸降後高平に仕か為幸受は死行と云  
高町にぬり屋九寺を信と云者なり水縁の権族同合致の者  
孫次郎御縁をら為御御体の中也  
廻江越云屋大池村控たり其の義云屋孫次郎之役限  
代々御縁也

砂畑之反分

大井村産石鏡石昔々下

大井村八巻

高き石あり一は石の形將に死地内除定文十一年

大井町名

新町

高屋町

木下町

橋谷町

大江橋

奥の棚

十五番町

飛谷町

市場町

上砂子町

下砂子町

濱浦町

掘坪町

産物

澄

大井村産

茶子麵

大井村産

保余石

大井村産

大牡蛎

大井村産

権尻物

干次

箱

乾苔

大井村産

馬麻蛤

大井村産

蕨漬

蘭

唐饅頭

海石

波湯治

大井村産

大井村産

大井村産

大井村産

大井村産... 白丸... 石を拾米... 子... 或ハ...

○山ヤマ之社大権現

大也子頂安町 祠友  
妻之陸丸

後友長門守

本社祭神

高皇產靈子伴舞丹子

ヤマノ下ノ  
年山ノ下ノ  
権現ト云

東社同

新嘗速玉男春日大明神

西社同

那智解男稻高保食命

ヲウカヤマノ  
大者山ノ  
下ノ

拜殿

高井 杉社二座

漢代時代不念世尊預正一位の神階を奉じ年山外  
號の當取存幣の杉社相殿年山の社と稱せしむ  
け社号とる也  
町右社前也月殿大 祭礼毎年八月朔日山車一輛を  
奉り月大に隨本陣へ取衣裝布取難子留左殿之  
氏也 杉井 杉社 大也子頂安町 祠友 高井 杉社二座

○江崎権現

大也子頂安町

祠友

本地長文

拜殿 高井

杉社

○稻高文 ○忠告社

祭り

○内容 大也子

大也子頂安町  
杉社三座留幣

小田年長文

祭り 杉社

杉社

○八幡宮 ○天満宮

宝物 杉流文函 宝鏡一枚 師匠一

祭り六月二十日山車一輛新造町古橋迄町古橋迄山車一輛ハ  
祭年二条の居着し祭人取衣裝布取難子留左殿之  
九月廿五日古橋迄山車一輛新造町古橋迄

○外文 同

大也子頂安町  
祠友

杉川穀馬

各社 伊勢大社文 持社 ○天國文 ○福高宮小社  
相殿 鳥井 文庫 古書圖ノ類

参り

右兩社は元大社之 牟山の社社と云に古く牟山の嶽之  
依治支九郎建創と云

○新宮松

と云 浦子山に在る古木之 山道に伊勢  
あまのたると云て其宮の雲然し 祝文と今傳へる云  
宮へむし 雲に祝をとりて 福徳之度 福徳の宮に  
拂給へ 古く濃河の古伝に 何處の神よりかはりて 海峽凡  
ふ道に此大社を 創り給へし け 安徳の後 傳へし あり

○市見親善

土西依 大池 五保町

雲守信

小社二所 古く城下の比名 傳へし 市見親善と云

大沖松子町妻木也  
境内一町又五段陸地

淨西三ノ村崇福寺

上人 嚴松山東龍寺

本寺ニ号河津院 春日大社

塔以七ノ

宝池院 平信

實相院

威遠院

林每新

龍用新

福用新

其家院

草創 用基 慈光 大伴

人皇本宗代 清和帝 御宇 皇親云々  
尊号 睿十代 同年 延喜九年 延喜八年 延喜

用山 天院 竟 矣 上人

文安元 甲子年 七月 廿六日 寂ス  
同年 延喜九年 延喜九年

南条下寺度之 田拾石

同村の内 茶古中 行本 法没 後 拜  
南条下寺 南条下地 此寺 平



甲辰年轉而建此招提云云中九世祖上人三列如  
前那の人の世の高橋畫けし人度く謂く神皇降る要  
を説因に縁て代り御来りた新信公と判形證を古  
もの判形に別れ兼て御來りたの院文敷多有り  
慈覺大師是基より天台宗より後淨土宗より淨若流乃  
檀木別り 什あひ荒塔たの道り

- 一 山名画 二幅對
- 一 雲院の絵 二幅對

一 神皇降る御布御幕 一 日向御籠御打 一 張

一 昆名湯摩依 阿比陀本像 天樹院棟におくると云々

一 切支丹抄卷 寺説云云代長公南と申す

此中以後の常備の紙を戸田孫七郎より以てお教を持来り  
寄附買圓お跡島に於て少き証確成おと云孫七郎に  
本親と札に付死に 箱上事

一 耆婆像 一 幅 耆婆像 太宗徽宗皇帝 震筆

一 方丈書院庭後法古樹方くも説く 神皇降る  
一 兩交はる入永祿之庚午のりり十九年梅枝百合我の時  
一 天正十年のりり十号 京本親与の札の良ト二交所入云

真云地吹中進花も兼 法下  
就五山宗意寺

○大寺町内寺地  
九段十号

客殿本なる不動明王 智證之原 別書 ○母子観音 春景

中興一圓山光栄会法下 從在い道にコシしと云と云大伽  
藍のりり 右法以の二坊下  
那の申張り



○大江北ノ方東岸境内  
之數十歩津代を白御理  
院文を了此不境の産也

淨海東妙寺末

福聚山海音寺

之藏

本寺新迦 額三三三  
定額取

塔取也

平

用山雪村和尚

中興親人宗和尚

廣修庵  
悟雲院  
禪海庵  
宝珠庵

茶師堂 右(海平)初院  
吳發源(利益)原

一切経苑。後樓。講堂。講守社

○仏舍利宝塔。海中泉(茶師は右(海平)初院  
海中に在り)右(茶師)

此長ハ海音庵と云有茶師寺守りの産地たり也

中興の古より此寺を建創而尚此より今寺の大徳寺  
寺院庭の候決名也

福聚山海音寺鐘銘

器世界南閻浮提大日本国尾張郡知多郡大野庄  
福聚山海音禪寺當別東南去官府六里也此地也近臨西  
南則滄海浸々遠向東北則青山蒼々或蟠松蔚乎修行  
喪然彷彿海陀河側依稀渭川干田於其中间立一  
宇高堂安置東方茶師瑠璃光如來竊惟茶師如來  
本行菩薩道時堯十二大願令諸有情不求皆得所以鄰  
里孝女貴錢充少紗福消災積功累作出離雖然於此道  
場古往以來無法種豈非欠欵資生進道之具於越家  
十方檀越勸化加助新教濟梵種以備晨昏唱國家  
盛也其謹々為作昭々也曉天日晝晝備夜祥入及行

道念佛說法持戒拔苦與樂之大器也豈不同梵王  
清祇植寺金蓮迦葉結集碎吒洞捷推猶有無常  
撞驗扇藏叱王聞之撞茶輪息况京大莊嚴寺僧智  
真步淨色振地府受苦者成也其初唱則志所礼無  
三五沈具儀立念聲聞于碧落則诸天皆神來  
擁如音徹千天象則祥魔逆道自隨後三界万靈  
六道四生是之湖瞻驚慎必夢降 天其根活用服  
晴而以得山通三昧境者也

銘曰

大用爐鑄 銘鍊石常 法鐘初鑄 兮虛高揚  
花前殿々 月下破々 聲聞三界 響徹十方  
驚煩惱夢 消万劫業 縲械忽脫 刀輪頓已  
其根淨尽 作本久昌 梵音不尽 福聚無量  
高檄在宝樓祝云

願以此功作  
我等与凡生

普及於一切  
皆共成佛道

于時定文六曆主光赤奮若霜月如音  
正法末流現住法音親心史謹去寫

大和町内古境古界下  
隆地石田依理澄文去り

淨漢府下相色字案

平

照高山洞仙寺

本寺河原院行基

○庚申堂

天正十六年方り十七化  
用山燈蓮社性譽上人白雲大和為

表門元能ハ元文之間為小治山形屋と云ふ所の門の戸也云

大地下西之町東側境内に蔵  
大正歩除名田修徳院天立

淨徳院住持安長源寺末

萬善山海壽寺

本寺釈迦如来 文殊菩薩  
定観如来

永禄己未五月四日

閑心華雲瑞意和尚

貞享己未七月二十日

中興 十世 終別倫和尚

右住持の口吳辨 安富

大檀越

常駿州大守

常山 隆年 壽三太居士

常上嘉大守光因院の屋道印大居士

徳雲院殿推心英公大居士

昌泰院殿了然齋公大居士

標月翁

渡守印

白石文

祝音堂。小社。二方丈。換門

浄樓

志堂

指板

灵宝什物

達摩西強画

二字和鳥 腕を伸く物居と鳥  
大藏物也 晉年

箱上書

達摩

万善山每年禪寺住持花雲路長補給

天文十二癸卯二月廿日

檀越高次郎附馬

天文元壬辰秋首

撤物養声

四明天童才一尺聖舟行年七拾七也謹為之

浮牡丹香徳

箱上書

依治為貞壽附

南六依治後河守天文元己の秋信心の換に於て建創と  
子と子等」此等二年為貞首後河守海年壽心共拾七也

福の爲に大に造る花寺和尙を招て開基とし(聖徳太子  
 二祀立て雲一畑若岳の香炉を寄附成りて以て其寺を稱曰て  
 信孝の如勢而付死成る山の塔焼失の時毎年ち焼亡  
 され共一畑ハ強り香炉もも修り有りて今付物と成る山  
 没後寺を大に修成 駿河守平、其の子爲成りて其子  
 八郎信方と成りて九郎一成判發而号巨哉と云  
 八に秀吉が田原合戦に属せし依成信守守りて駿河守の  
 甥と云と云と云と云と云 尾張守に成りて其子爲成りて其  
 光成る公の御代に成りて湖陽居りて修りて修りて修りて修り  
 輕く成りて改易有りて其時依成の如断絶成り故に九本寺の廟

○大也妙子町西妻は母  
 境内を及ぶるなり

岩殿本なるなる河津院 眞徳寺  
 東白後子書本なる觀世音 眞徳寺

天台宗の宗廟跡  
 天満山雲雲寺 法下

高長に及年より成りて

因基 大河園梨秀景法下

元禄七年十一月十九日

才真 大河園梨法下 法下 法下 大和尙

境内  
 天神社

帆下ケの天神と云物山宮山の天神を帆下ケの社  
 といふハ不審一後云山の社と稱之と云と云  
 山号を天満山といふハ何れ也此の社と云と云  
 一和尙古に後成りて修りて修りて修りて修り  
 其の如く不詳 帆下社あり

南山 法音 駿河 富士山 北は白山の麓内是建の  
 寺格といふ付物に富士山定一の神一幡亦ハ法承平  
 焼山の爲に掛あり 其子信孝に古焼失の時法承  
 此の如く不詳 駿河と云と云と云と云  
 其の如く不詳 駿河と云と云と云と云  
 南山 法音 駿河 富士山 北は白山の麓内是建の  
 寺格といふ付物に富士山定一の神一幡亦ハ法承平  
 焼山の爲に掛あり 其子信孝に古焼失の時法承  
 此の如く不詳 駿河と云と云と云と云  
 其の如く不詳 駿河と云と云と云と云

東國使六条車幸御自足院 内陸院家

妙林山光明寺

塔元也

光蓮寺

法通寺

開山寺

田中寺

大也東原町境内之取分并  
田中及ふ備家陸院院文をり

本寺あみだ仏

中興開山佛姓上人

寺願之六名七年

元年 寺願院

塔元寺の古坊をりて二坊区塔事元甲二ヶ寺 所書也  
再興有りて廣大に成り

抑高古の古天台宗を小林山光の寺と云日部小林の里に  
在り寺者仏姓上人の時宗祖上人の得志帰依本寺を  
捨て舟子と成りては死に易地而り小林の光の寺に  
云西蓮宗の景をり  
縁紀也然る付云 为天台宗時の異創 不傳中興の

仏姓上人の在原の寺を末葉慈庵内上人皇平元年  
街より保祝五の的子正に位上た申於在原則其葉平の  
在故るが帝 尾形念多の致志庵の里に慈立年を前  
高を在原と稱を降り改本名を為慈庵内有之りひり  
逝去の後に孫為志石塔を建於了慈庵内富田村よ  
葉平一寺外一程の石碑代に傳有り葉平十代の孫  
慈庵公平の子仏姓上人の後堀川院院元と云改宗を  
云し  
寛文九年の寛政の年也五百七年に  
仏姓上人の十代孫念律師妻室の水地有るを母に故社  
又の地下時守田院十町は寺附と云之地の寺後依法上地を  
て母方祖父の大地村内於小林邑田院十町余時守正八情  
宮山地共に寺附依法居去の後藏田有未女町の内  
十町川原居藏如光親一は寺附の地に秀吉孫の刻  
後収奪系也此孫の寺物水地り守依法上地守州成  
藏田有未の判形未故多の時有る石田院款等長女の

逆孔の初九鬼大陽寺高僧孔好致火の時妻燒亡次  
系略たの如し

○水燈たのち吏

女子 三列戸原殿室

水也下燈寺

水也友原

女子 信通院殿

女子

光燈寺淨念律師

○潮足坂

或年之招二師於小村里茶山而卿食之云云路登山嶺  
樂老在悔而曰潮足坂哉自此呼其坂而号  
潮足坂云々

ける也初那の老也皆掛二村山の原より云云云々此の嶺たを宮原  
るもやけさるりささして思ふた也云々此の嶺平原足之何地とさしたる也

○大也の原少倉村古地  
五段分余儀有除

時宗洛陽四條金谷の全運寺兼世相原

小倉山蓮花寺

本寺河海院 仍名也

○地蔵寺

元亨二壬戌年九月朔日

鎮守

○用山即轉上人

俗姓友原氏  
今五年寂

○能也権院私

○衣掛堂

至而古様 勅使出衣を懸て懸ひ云  
と云一説之大中初高の養正云云

○不明門

勅使門に云表門に於て之能と云  
て出入を云平坐の掛小門の出入  
後在室院帝 勅使通の所也  
と云云

○来山塚

後何守死去の御美山の毎年与美内様く孫子の  
本塚に由平左衛門の地を傳り 吾安或云り不明門の古也  
一塚有りそ下に塔あり輪有り申奥門の墓の昔も此塚との  
来山塚と云是ごとく説く云々

南吉田奉正和三年一色左衛門道秀建創之  
長心和之實子寛政乙子年也江戶七年三月

時宗是蓮三郎  
行生庵

○小倉村産地  
地境

本寺十一面觀音  
江法所次太云像  
高野十番火祀所

○中倉村境内  
十歩の年々

淨隆大井内  
金地山蓮生寺

本寺阿字院奉祀  
寛文十二年五月九日  
○十一面觀音  
高野十番火祀所

○用山蓮社源峯言及悦和書  
傳守

中興小蓮社信峯言及和書  
○秋葉宮

南山院奉正時代不知古ハ流傳山下云近代金部山と改境内  
十一面觀音在古宮山の城依治代のお乳の人建立在にお乳  
の書也親毫と云ハ小の方を以て地は茶書河にお乳の  
書と云はる中以後内ハ川後次と寺の邊に不  
お乳の書跡と云ハ

○宮山城城  
大也名宮山也年未ノ方東西拾又百南北七間  
は方二重度山も山南東南ハ山障如ハあり

南城の依治上地守為久  
大也城と云 大也村の行程也河可及己方也

依治代  
大平記綱目ハ川ノ下依治代  
書尾の國ハハ云ハ延文ノ也  
依治元來丹波

中興通江甲斐那ハハ云ハ  
丹波江  
依治元來丹波  
左方指

江列あり六方石能久  
好くを而後河守と振キ云唐を惜て南郡の内を治を

而後河守居城尚郡 又山色を以て飯上地也  
 口公卿 曰と九卿 曰代古蹟と云く 備中と為備は伯父  
 後河守内縁故志多々郡と川あり内はた居城は志多々  
 計り領ス而し上中守斗七の女と嫁次水知教政守林右衛門  
 會下領 (又山城跡の山の北に在り) 〇人切橋 (大也の山に在り) 〇西口 (北の山に在り) 〇西口 (北の山に在り) 〇西口 (北の山に在り)

〇大門

〇せうが山

(城内の地をいふは) 〇せうが山 (城内の地をいふは)

〇禎度山

(城山の南に在り) 〇禎度山 (城山の南に在り)

〇官山村と地

海西大體東部と地 〇官山村と地

本寺のいふ院 恭隆之所

軍山東親五世安譽上人

享保に在り 〇軍山東親五世安譽上人

再中真上真譽祖賢大徳

中真清感大徳

別書

〇鎮守社

〇官山天井

大也色也天井

〇系山祖尼寺

〇母殿 名井

天馬の類

〇白山院

〇年改天

〇御洗井

名あり石を以て 〇御洗井 (名あり石を以て)



をりけいまの井の水毎通ひまゝと云

漢元時代不詳葛社と云處古雲校を交へ深井たる南院の  
帆下への天竺しき浦後海の舟室にあり少き帆を下  
ざれい必承傳有りて帆を下り城山のあり漢元時代  
仁宗作神名帳に云山村産砂神八幡宮云云天竺  
菩薩大像に似似給を村氏を押し入て菩薩と云國內  
神名帳に從之從之御天竺ト云ハハ社ト

古くは越後守花吉

法下

八幡山徳尼寺

号中坊

大地の  
石形村を祀  
八幡十坊

本寺石形親善行書

用山不詳

高那十重のれを祀は三三寺と云大伽藍の本寺と云  
之當古の宮の天竺の別當に親善書證京尼の徳尼寺  
寺山の号によりけり云山の地八幡あり

三瓶神社

石形村 國內神名帳に從之從  
イニ少倉村に云 少倉天竺社と云けり

深曹帝御年

龜嶽山全昌院

石形村の城山に云續中地  
境内に云又八幡十坊浦桑除

本寺三石河津地

用山御年二世大寺東孫和善

天文七年

完基花屋全春居士 依信氏家光職  
竹内九方を所尉

中奥深山桂良全昌首座

安慶十二年

南院世中奥徳壽元隣之云 恒藏中  
存下橋井の地

南の山の瑞光院の建立の由を記する事に関しては、  
 依治二代益徳二幅を行村の寺に寄附する事に由りて、  
 益徳川の右岸の山に在りて、後に、  
 寺下中下は、益徳川の右岸に在りて、  
 元禄二代に、橋井氏の中孫内孫在りて、  
 橋井氏の始の益徳村の住人に、  
 云ふに、双河保の方に、  
 純河保一敷に、  
 八本寺の弘法大師依親世者に、  
 元禄十一年に、  
 一尺八寸一分の量を、  
 中孫内孫在りて、  
 持つる事に、

ゆきつたての御座る

如來の坐す

我れ未だに、  
 中孫内孫在りて、  
 中孫内孫在りて、

遺れの由を記する

乃は後の御座

宗河保院の由

乙丑寛永二年六月十九日

明夢

橋井字の御座

集録

名取山の瑞光院の建立の由を記する事に関しては、

一一親善用帳弘法大師依親

前駿初大守守三公益徳幅

天文又丙申年二月日行内大師益徳幅

前上列大守守三公益徳幅

益徳幅の御座 益徳幅の御座

益徳幅の御座 益徳幅の御座

益徳幅の御座 益徳幅の御座

益徳幅の御座 益徳幅の御座

益徳幅の御座 益徳幅の御座

益徳幅の御座 益徳幅の御座

開基の比木香山瑞光院と云後寺 御法号祥り  
及多次境内無事山衆を構へ候跡多々杜原又也  
小社 庭に二株あり △竹村山内片をり竹村ぬきり也

かど池 〇おのほ 皆大地村別字同あし大地の云と云

かむりけの内も池  
そぬきりも貢地

本寺 阿彌だし 安河法依

開山東 親世代宣子 意持上人

昆門殿 古仏の尊像 諸地と云 花のをり 知れ候  
廣元の知何しの代より大地村神文の神主方に傳はり候

降ふ大地東親と云  
香山寺 雲仙寺

南古南の地内  
葛竹をり葉々  
其ま竹と撰別  
赤坂田光と云

志々高南村の昆門にり古記より親世たりとのて高村の者先也  
大地の神よりをり合設有り預り候の上此和之候也  
へはをり来りて春月堂や利に建立け地川移次古候  
川流のをり地にり古年五輪有り候古は昆門殿守信の  
古墳ありと云をり候内川移次古年五輪

〇校戸村山の方境内  
花部何と云と云

祥光山親雲古

本寺 釈迦如来 惠心信布

延宝七末年七月之化

開山 湛然寂光和尚

元禄元年正月之化

建創 龍雲寺殿 大安之信 指士 行徳代  
古巻不石碑

本堂 方丈 庫裡  
開山堂 澤樓 持門  
法化寮 諸堂  
護守神 八幡祠

福善寺 後万福寺

瀧沼川 曰

茲東海道尾張の別名多那按戸

村祥光の孫等とて撰んて以原舊立尾陽城東北の隅  
春日井郡那加の村延宝中己酉辰年行徳氏之信を在土  
託行代山城守源正晴公謝す又茶達ス 老女殿下  
之尊姓<sup>草</sup>率教為禪引而心遂改移此地即此寺是之  
享保六年尚寺分り恭家女を奉火定入几場石碑の  
銘

享保六年正月十八日午刻

火定恭家子高祥師之墓 火定場

一様柱在  
石碑ハ  
在

接門本堂額亦之度也

書院大額額の益先和尙

中ノ一庭後漢の大株也

火定場の根は石碑あり

清勝院殿徳義孫柳老居士之塔

于時堂永方五  
不年十有念旨

孝子北曹氏之次子「顯利敬蓮」

表 北曹氏某之王六拾二代村上天皇之後胤二品中務卿中書王。

貞平親王之末裔。奥州国司源氏北曹顯家之氏族。奥州  
国司顯能之庶流。從川方政能之世之孫也。政能當在任于  
海防川方故改北曹號。川方源之傍政能別娶入道之後復  
舊姓號北曹益不忘其本之政也。法名孫柳世壽今有年

龍雲英鐵舟誌忘

淨覺寺僧村天次院末

雲澤山海徳寺

一三六書山

本寺釈迦仏依不志

因山寶庵寺和尙

某所書 有住者云

建創時代不知山の事後、在り  
あること人傳し、後、寺の  
隱居者永昌古と云ふこと  
左んしと云

鬼ヶ濱

板本三村の多屋村迄の海岸は真砂地

板本三村古記  
口取大寺の古記

次高やの貝林多く陽系之地に新田中書左近  
按て鬼ヶ傍と大也傍の石邊にぬきやと思ふ

源曹左衛門村天保院末

孤家山桂名

○多屋村に中路あり  
境乞取在六歩陸地

本寺登観音堂

南寺院創末委不志

慈永中人の御詳

岡山万勝和書

○多屋一本松

多屋村山にたたりて其の大木根より二丈六  
尺寸余けぬ常借の執焼の塚山牟村の  
遠見番にの伸入江のは岸鬼ヶ傍の足跡に  
同京甚堂安南  
浦二三ヶ所の常文の内に  
交野村のよあ板本村の間縄子の石屋の  
山伏平の堂  
古株一本ありおの字にも古堂二あり

是を山伏の志信しの堂と云昔日ふたはしり山伏の死て後此の  
人を志高南一尾を安きて詔を弟ひ多やうたはと里氏の御代

○牛臥天王社

大社

多屋村  
一本堂奥方

井上久吉

お殿 多井 瑞恒 持和二府

官誼殊の外丁寧大社に提古大書の本をとり帆下々の天王  
と云は海路帆を下ヶ通より中奥の方へ社を移して奥澤  
文居何りのりみのかひなくと云 多あり

○多屋村を丹社と云徳元文字に多屋と云板本戸

多屋常借(名) 山條 奥條 浪本 常借右  
バウ村と常借と云

○遠見番に 山條村取村は岸山上あり (其のそを常借に  
三ヶ所あり)

○常借瓶焼 浪本村の山牟也を焼く谷敷丸

十ヶ石中よりろく石もをきりて減き依り火の能く燃やせる  
 正真焼と云ふ真依れをりて火の尚もさるるを阿まらざる  
 と云真焼の南嶽寺に似たりし正依ののこりて某を以  
 ちてたものなり然焼きて好藤葉を焼きてりし亦一或  
 焼時に此文ありしよに後法ありかすば此家毎に昔に  
 瓶蓋井竹の歌皆も送りと火を焼き後有秘をて堀  
 出スれとて住む此地の産物に住むは火の形は正依り  
 て蓋のてしこ小瓶の蓋形などおたるありて甚志あり  
 日毎に焼立ん各の堀りも海はと神してこに里にん  
 け地の山と云ふ詠や風系亦おひるる具をいふものなり  
 神の文  
 北條村 社人  
 石階と登り 梅社 巳宮  
 多事

正  
 依二位常石天神 一本依 正三位 古田正依常得村なり今  
 高ノ宮と云ふ 神名帳にあり考に小条村神の社也  
 小条も老得の内也  
 老得村の神村の神  
 寺内一畝十八家の首也  
 正依常得村天久院末  
 神護心相持院 平

本意此花首安河原依  
 開基勅清梅子慧抄和尙  
 中真花宗玄押和尙  
寛永四十年化  
 三世中真角當友公和尙  
海内或名村常書末  
 常光山宝樹院 上人  
九十年なり  
 常得村真条村  
 地内四畝餘地

本寺 河津院 親善 依不乞

開山空隣守光和尙

建三時代は法不為葛地ノニ也  
本板名多ト云什ノアリ

塔以 真教寺

真云也也可徳也来 之聖原下

○老澤内真徳村の古  
寺及江風子澤也

客殿本寺業原仏法大原依

○親善堂 土面寺依 智徳大原依

補陀洛山太学院

延徳元 法 年 之 世 百 年

尚那十世善九別

中興開山真光法下

水也監物恵徳 の長男 漢守沖 ○寺及天主祠

古く老澤にあり地監物恵徳在城の古く建三と云年及天皇初と  
監あゆ神とて昔ハ高村の善妙神とてハ和に神とて  
お来たり舊縁あり 現存善花所植とてあり  
北条邑に去下友たつと云をり去下初年治的孫と云

古城址

常借邑 辰巳方 構内東西七十五分南北 土分 四方二三分 土心田

水也監物同河内守父子の居城

永正年中セリと云。字長法師塔別の大徳寺尾加多郡  
常借北澤にありして之の刈倉水也教九守由守  
の居居たりとて時の發るたの通る多し真行  
朝寺ハ法も多しと云る所と云 宗也 于後教海  
歸りしと云

水也監物

老澤村の内田中に老の塚ありて云云  
情をり云竹海之行もの屋敷跡と云天竺院と云山の  
向い合の中間に石橋ありしが于後村の山に越く石鏡を移  
し之行をハ山守心信の墓と云して後天竺下ハ雲守原  
麻方ト云姓好勇而事之任使故不能父業隠退而居  
此常借村元禄元年辰年一丁セリ七十六年を以て  
卒去別後本元村を去りて云云

○常得村に巻の紙と云は 撰所のよむに 常得村の紙の  
可い具より 納りて 上しに 肉を 具を 歩給  
之度 納り 納り 上し 具を 歩給

○日村に 諸川 常得と云は 医師 たり けり 年 常得 常得  
二之夜 諸夜 夜 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
の地 古き 常得 常得 常得 常得 常得 常得

○常得村 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

○常得村 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

○常得村 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

### 用山貞把坊

正保年中 勢別 一男 田舎 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

### 親松山正任院

浄如 女 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

### 本寺 阿比陀

天正十六年 八月 廿七 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得

### 用山空観榮上人

### 中真常山土世村植順上人

○常得村に 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得  
常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得 常得



○常滑村入宗例  
古月二部下より

東門院古本宗

海塚山ノ堂古

本堂 可又だ  
閑山ノ儀

昔ハ乃乃場ニシテ曰ハ坊位在テ後  
一ノ古シト云ハ妙蓮寺ト云ハ  
七八ノ年示改号也

寶王無心天院

○常滑村山真院内或又  
之取子即之在村部町  
八反ノ儀宗隆山真院ノ

本堂 子ノ親音

閑山周鼎和尚

元禄十六未年ナリト云ヒ

中真十世孤峰不自大和尚

閑山村ノ漢古在院ノ内依宗  
七ノ年ノ宗ノ在村部町  
行基ノ依子ノ親音ト云ヒ  
安否ナリ

本堂 方丈 庫裡 法堂 鐘樓 檀守社

南音閑山ノ雲閣和尚ノ依宗先師逆縁和尚孫河村乾坤  
院ノ閑山ナレタテ所川信和翁を完基トセリ  
寺ノ閑山ノ逆縁ノ志を継キテ所川周鼎和尚ニ閑山ノ  
用ヒシテ水地ノ城代慶之の良建ニ立テト云ヒ  
閑山院内ニ別業ナリ

月秋成園居士

二十三親堂

寛政三未年  
山内ノ有

○常滑村山真 去村下  
常滑地ノ高カニ在リ古  
ノ地ハ西洋

福壽寺也天久末

一方ノ山終ノ寺

イニ平田山ナリ



二王門

春日氏依至る舊  
古仏形相形也

抑淨嶽心言 漢もよまはる山真常得と成念願中間の  
大伽藍をうけて白鳳年中 冥基の基築六年の時建創を  
信の寺の始りと云天武天皇の勅預刻を流伝言傳に及び  
去りしより高跡跡安んじて跡より後年 匡時而くハ  
土地に奉るハを言山古村と云て人あはる千村の南の傍と再興  
お傍而くハのいさる漢もよまはる山法字の寺と古伝のまはるは古  
大伽藍の時の冥仏といは九平が一毛たり冥條十申といはちの  
本堂焼失を言を言て再興とて 衡昔に言はるは古伝  
おく付あをり也傳の寺の涅槃像をうけ掛あ表すよ  
奉施入涅槃像一鋪 嘉元元年 丁卯十二月十三日  
權少僧部 叙金判  
文明十二曆 辛巳正月晦日 修補す

寛文四乙亥年 再修補

淨苑寺 正徳元年

山崎光心 稱名寺

ふる河原村南山際  
古仏之及ふ御堂條

本寺の河原院

淨嶽心言漢も  
古伝の月

高山門、山北の末頼殿  
寺

文祿に末寺ニテリノ寺ノ家

用山本堂 壽光上人

名ノ寺

けあ 純摩法眼澄如宗真向河原院畫像 壽光心稱名寺  
常什物トアリ

開泰ハ文祿ニ至リては古ハ本寺河原院ハ形在中興其舊形ハ  
今ハ亦大形の河原院と云本堂ハ古の再興を言法儀を  
云り山崎光心の類を云

○親善堂  
○相生堂

河原院

高古也

橋本村氏神堂内

○久田之寺の連河地村をとりて南に之を築き其地を  
曾信志と名けし家の楹に永承三年の年紀あり出に  
神君の廟久田と云ふ所をとりて南に之を築き其地を  
里流次 楹に河の南の南流の事跡ありなりとありし

十一年九月廿五日  
○檜原村 余山より  
古境在りて首地

本寺の茶作仏 春日山

閑山照庵慧最首座

中興寺獨家 永承和尙

親善堂 行基宗依

○古塚塚

川原村山  
一本松と云ふ

張人の夜しやふと

淨曹常僧 天正隆末

石松山瑞泉寺

院住八世

南寺建立時代不知  
けり焼あきの海路し  
りて焼あきの海路し  
りて焼あきの海路し  
りて焼あきの海路し

十一年九月廿五日  
○外庭村 境北  
部思少首座

本寺 阿みだ 非島

閑山恭淳 高小和尙

淨曹常僧 天正隆末

大高山安永寺

○茶所堂

建立時代不知

十一年九月廿五日  
○古陽村 古月  
三四十少首座

本寺 阿みだ 院

閑山法用 和尙

右の末

日光山安養寺

○茶所堂 古山

右の末

十一年九月廿五日  
○大谷村 古境  
口以少首座

本寺 阿みだ 院

閑山祖別 首座

右の末

万年山玉泉寺

○地蔵寺

中興 大真祥徹 和尙

○大谷村古史  
之史も亦存

本寺 阿深院 安深院

天正三十五年七月朔日

用山 流更 和尙

元基中孫不元

○旧村 境地七畝  
芝山 年貢地

本寺 釈迦仏 作名

元和元年十月廿八日

用山 一海宗 得和尙

大谷村に心月社末一徳山陽  
徳寺と云ふる通稱古号の  
廣月村瑞寺と云く徳寺  
と云瑞寺と改号にヤレ  
形云と云

○八幡宮 天王社

大谷村

旧新 曹法寺

お殿 冬井

祭礼 元月十日

車

指針 芝山 本師  
新子 大工 舟敏

牛馬 八車

持 日

高子

昇り 本師 七本

神 本村 川 海

たりの末

天 龍 山 寶 珠 庵 田

○コスガヤ 小谷村 中 在り  
境 内 之 史 亦 存

本寺 觀世音 作名

元和三年己酉九月廿五日

用山 寛秀 廓 大和尙

用山 寛秀 和尙 心月社  
之 世 之 歴 代 而 尚 也 之 史  
亦 存 一 寺 寺 之 史 亦 存

里 氏 云 往 古 大 谷 小 谷 と 兩 村 之 間 邊 の 代 々 之 故 舊 の 所 在 して  
舊 之 所 在 して 尚 村 の 大 樹 に 舟 を 依 り 體 入 陸 する 所 なる 故 史 亦 存  
付 け 捕 へ 一 史 亦 存 小 谷 村 之 史 亦 存

澤曹布古村心月社末

金 鈴 山 曹 法 寺

口

○檜椿

廣目村 (南村の西隣の十町中を出入り中道)  
古く北の傍に菴跡と云ふ

椿の本に入交り、椿の枝こけ地に隈れ、橋本又いかに  
本に志す、いかに石成せに稀必本に谷向を流りて、谷に

稲曹布と云ふ

一乗山廣目寺

○廣目村地志  
主要地志

客殿本寺の觀世音地志

後月  
○毘沙門堂 行基依

中興園山本堂代仁山和尙

寛延三年(1760)迄

當昔に至る古跡に南毘沙門天の園庵といふ村名に云  
是ハ村民志す、細目村の毘沙門天對面、初云々、橋本  
は天の月廣目寺といふ、巡行の時、和尙持尺出た  
別は、眼目大成する、和基の彫刻、古仏、和代高  
を云々、彩々を流して、吳像を様々の楷、和の天台宗

吉祥山廣目寺といふ大伽藍たる也、仁字に云古跡を  
申の坊、南坊、西坊、安養坊、真坊、小坊、檜椿  
大門、経田、経田、池田、神田、持と、葛藤と云

○從之佐廣目天宗 也同云 比叡云

持殿 花表 杉板

祥曹布と云ふ

臨王山東光寺

和尙

本寺 釈迦地志

後月  
○業所堂 行基依

同基 班威祐虎

和尙地 仁山和尙

本寺之屋、進業所の書字、  
室の廣の物、和氏一寺、再  
真、和井、八上、地同村の別  
を、始、和、た、云々

○坂井村と云ふ地  
毛、反、九、眼、分、年、地

或年  
○從三位時國天神

上北間村  
山上石階

社人  
左門

系神菅原天満宮云 持殿倉井 持社 二座

菅原の神皇より皇成りて按天孫本祀云々  
麻呂命十三世物部令連公北間の連の祀云々  
系祀云々

△車 淨土車 湯之神子 神と内 憾 俗説

太鼓少歌子 村北の神皇の御子  
社の上上に在りて面々の大社なり

上北間村天神山下  
古地一五一畝は備後

本寺 釈迦三尊 新仏

護持社 祭 庚申

如意山大仏也

○用山別尊和尙

○山の神社

社内一及少  
本林除き

上北間村 大仏堂

唯心庵

○山口村南山下  
境内山林

本寺 阿彌陀佛

用山大仏堂

境内 大目堂  
街をたどり川沿を修し橋を建て  
少子たつたをり令割りて  
教工境内に業作堂とて寺僧の  
祀ありしを知れり  
小栗田村の内り上北間の内り  
不念此寺の存也

○小南栗田の上北間村の次より中北間と考へし由年以  
栗田村と改号せざる也里談云

ハタステ  
○山崎拾 栗洗池

山崎田村の西村路、片原小栗原の  
間、形云々あり、金堂丸の左端、云々

ナニノ、年ナリ  
○山崎田村の内  
三田十二歩、自在地

本寺、某作仏

境内、某作堂

香海山清久寺

福曹南真田村、報恩寺末、平

用山、不詳

由、終、不、定

○山色、境内、七、飯  
十六歩、御堂、除

本寺、河原院、小儀

東村山陽松寺

大石、以、末

用基、一葉、紀、公、元

申、具、宝、山、宗、瑛、和、尚

由、終、不、定

○南、真、田、村、村、坊、七、八、町、赤、心、子  
境内、御、堂、及、之、四、五、歩、御、堂、除

福曹、常、傳、天、傳、院、末

乳、實、山、報、恩、寺

本寺、河原院、行、卷、版

用山、雲、関、珠、宗

南、与、菴、海、院、凡、九、步、有、年  
佛、祀、石、一、古、キ、柱、解、一  
二、基、を、り、路、如、凡

圓寂、乳、實、貞、哺、大、禪、定、尼  
大、原、元、西、年、年、三、月、廿、五、日

永、正、六、己、酉、五、月、廿、九、日

久、重、明、神

境内、東、方、山、上、に、大、古、寺、一、株、を、り、是、也、久、松、明、神、下  
宮、致、成、地、極、高、那、坂、形、極、々、久、松、法、後、年、を、終、ら、せ、り

寺、傳、云、久、重、氏、の、乳、母、の、用、基、建、立、之、と、一、説、を、り、貞、哺、ハ、西、安、寺  
人、の、御、下、一、と、二、世、和、尚、ハ、弘、治、二、丙、辰、年、八、月、十、八、日、子、死、の、也、後、の  
説、に、用、基、の、地、未、在、り、と、云、墓、石、ハ、古、キ、又、輪、石、ハ、足、下、菴、院、と、  
是、也

武、家、譜、畧、ニ、云、久、重、氏、の、元、祖、ハ、天、徳、日、命、也、是、ハ、今、十、七、世、



孫也凡 宿禰守合の一男遠江守右人の家代管相悪  
 以辨右左將及真帳指五斗十代目也久世孫正乃尉及  
 定と云是ハ尾別 阿古色色に能長久松守代ノ朝  
 帝に仕へ童名を管久世廣と云孫凡に及定ハ故有而  
 勅勅を多り尾別知多那ハた遷せらる故に能同村の  
 大進院に任次里ノ久世五斗と云名を呼ばれに及定始て  
 久世源心乃と改メ子孫長久世を以て稱号と云也  
 之ハ尾別ハ是利孫守の管領期彼守の領国たりしが  
 子細五斗に及定ハ阿古色色に及定守の孫凡緒在定ハ  
 六代目久世亮定成に女を娶て男子を産み  
 清和天皇ノ十代ノ後胤一及守内ハ法下迷降ハ及守  
 也此及守捕滿真と云け二男一及守守乃尉詮定ハ彼  
 一女を嫁して久世の及守を継志む是ハ及守守久世  
 次守乃尉定義と云け嫡子久世依後守定後也  
按之ハ大進院ノ云也乃阿古色色也 報恩寺ニ在  
 の舊寺也や世間の大徳寺の古寺也や委也

山王社

持殿

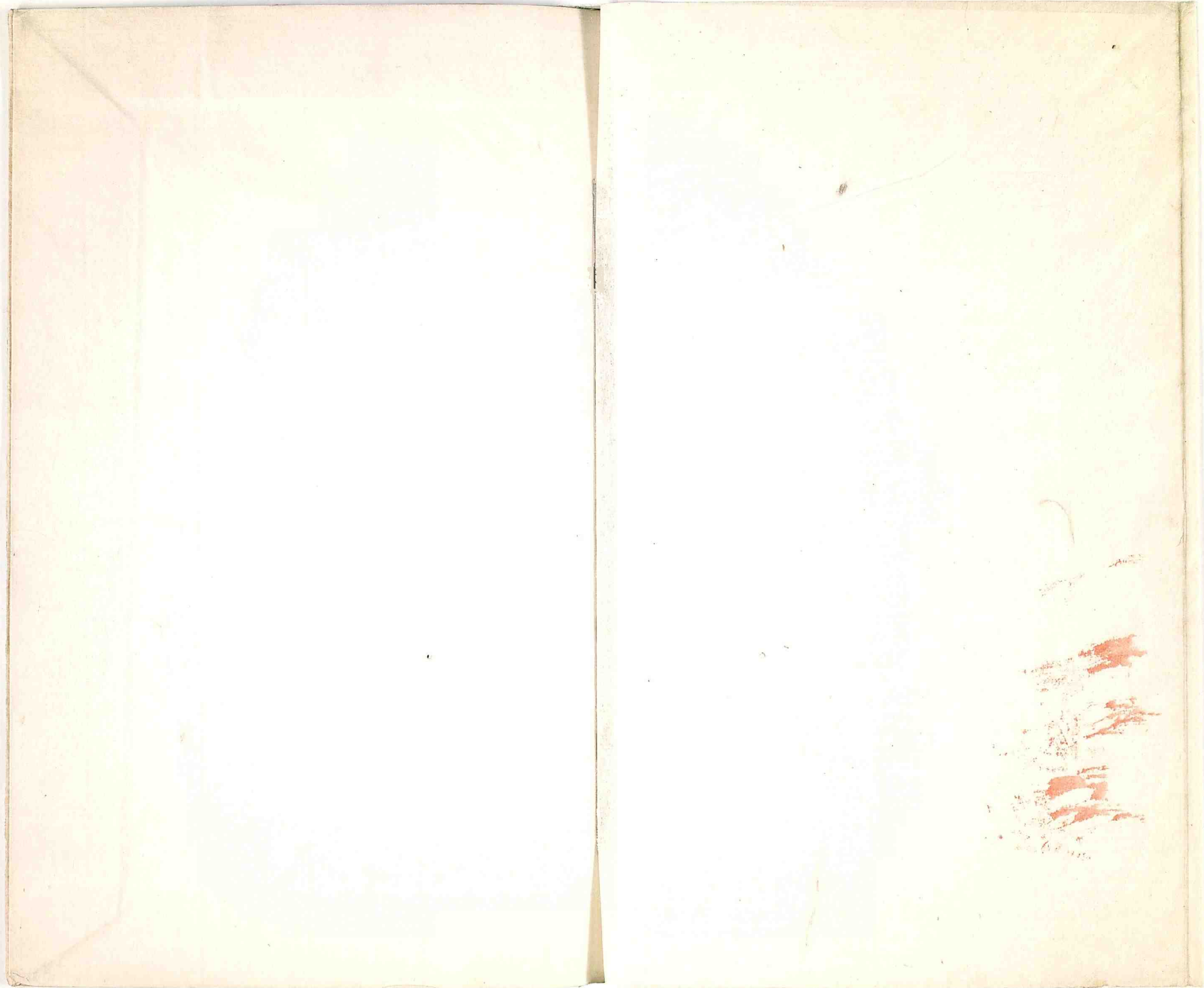
鳥井

持社

奥田村

社目

水也荒合真守曰斗是丸ノ外一族の標札をくまりて  
 舊社ト云得也此ハ今も標札也ト云



愛 知 県



1103269531